

「知の市場」公開講座 2015 年度前期受講者募集中



知の市場は、自立的で解放的な協力関係を形成しながら人々が自己研鑽と自己実現のために立場を越えて自ら活動する場 (Voluntary Open Network Multiversity) です。そしてプロ人材の育成と高度な教養教育の接合及び社会人教育と学校教育の連結という二つの結合を促進する挑戦でもあります。

2004 年から 10 年にわたり講座を開講し、毎年 3400 名以上の方に受講していただいております。2014 年は全国 47 拠点で 92 科目を開講し、2015 年度は、全国 35 拠点で 68 科目を開講します。2015 年度前期の開講科目一覧を次のページに掲載します。2015 年 2 月 1 日から応募申込の受付を開始しますので、ご応募をお待ちしております。

開講科目	2015 年度 機関別開講科目一覧  参照
対象	開講する科目に関心のある社会人(学生、大学院生を含み、年齢、性別を問わない)で、継続して授業に出席できる方
応募方法	①受講者登録ページから登録してください (http://www.chinoichiba.org/php/register.php?mode=register) ②「 2015 年度前期共催講座 」、 「2015 年度前期関連講座」 を確認し、希望する科目の開講機関ホームページから応募申込してください
受講料	原則無料 (ただし一部の科目においては資料代など実費程度を徴収する)
応募期間	2 月 1 日(土)～3 月 23 日(日)を目安として 開講機関が適宜決定する

* 詳細は、[知の市場](#) ホームページをご覧ください。

知の市場

— 理念と実践 —

(2013年度実績と2015年度計画)

第6回知の市場年次大会
2015年2月12日

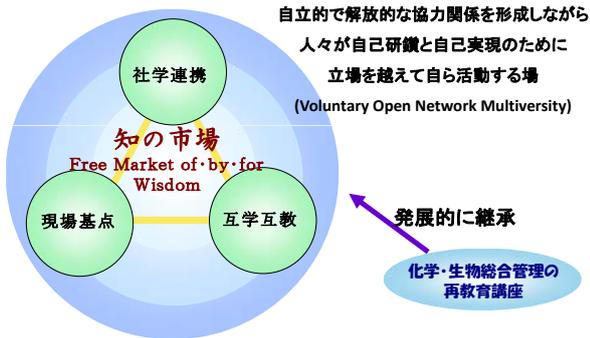
知の市場会長
増田優

於:お茶の水女子大学

I. 理念と運営

知の市場

— 化学生物総合管理の再教育講座の発展的継承 —



知の市場の展開

第0期:黎明期(～2003年度)

第I期:形成期(2004年度～2008年度)

第II期:展開期(2009年度～2012年度)

第III期:基盤完成期(2013年度～2015年度)

自己研鑽と自己実現のためボランティア活動の基盤構築

第IV期:自立発展期(2016年度～)

完全にボランティア活動で運営する教育活動

「真の教育立国」の新展開

知の市場の展開

第0期:黎明期(～2003年度)

- 1) 実社会に根ざした「知の世界」の構築を目指す活動を本格化
- 2) 「互学互教」、「社会学連携」、「知の市場」などの概念を創造
- 3) 理念を共有する有志を糾合して連携機関の原型を形成

第I期:形成期(2004年度～2008年度)

- 1) 5年計画で「化学・生物総合管理の再教育講座」を開始
- 2) 「現場基点」の概念を提起し、「互学互教」、「社会学連携」の概念に追加し、「知の市場」の理念を完成
- 3) 開講機関の概念を導入して運営体制を強化

第II期:展開期(2009年度～2012年度)

- 1) 自主的かつ自発的な教育活動として「知の市場」の名で新展開
- 2) 開講科目の分野を拡大しながら全国への展開を促進
- 3) 自立的にして自律的に活動する基盤の構築を本格化

第III期:基盤完成期(2013年度～2015年度)

- 1) 社会を構成する多彩な人々が自主的、主体的に参画する活動の基盤を確立
- 2) 「知の市場」がさらに自立的かつ自律的に発展していくための活動基盤を確立

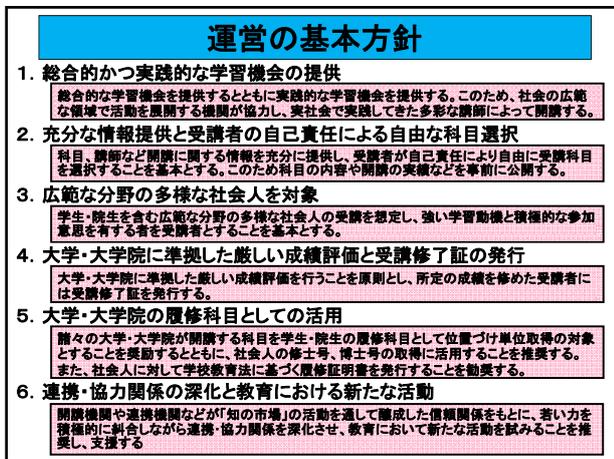
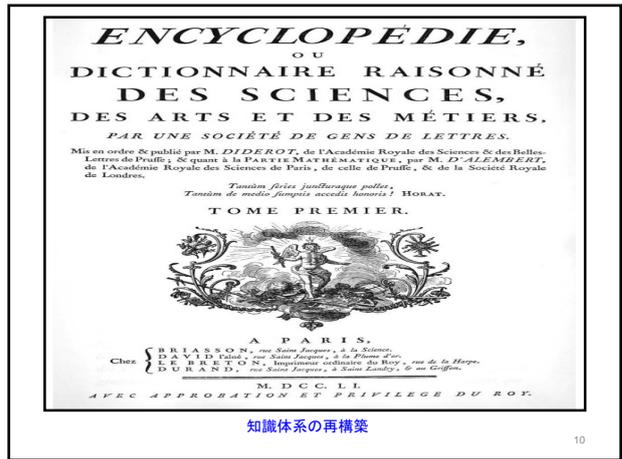
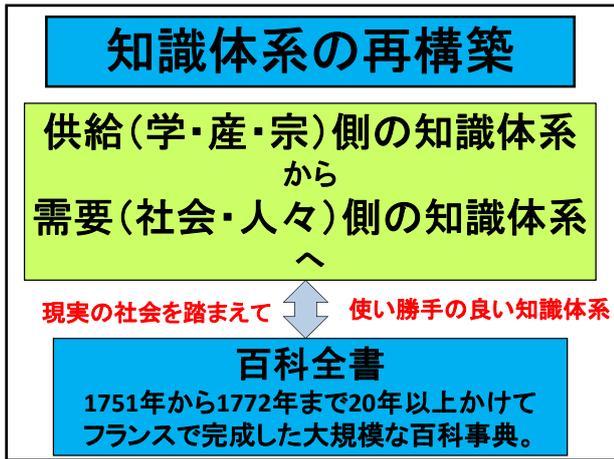
知の市場
Free Market of Wisdom

知識の切り売りを排し、
対面教育を重視



自由な交流を尊重し
知の伝播と普遍化を重視

知恵を持ち寄り
互いの知恵を活かし合う場



知の市場の構成

共催講座:

「知の市場」の理念と基本方針に沿いつつ「知の市場」の運営体制を踏まえて、連携機関の協力のもと開講機関が主催する。

関連講座:

「知の市場」の基本方針を念頭に置きつつ諸般の状況を踏まえて個々の主催者が自らの主体性と責任のもと柔軟かつ弾力的に運営する。

再教育講座や共催講座での経験を活かした活動、開講機関や連携機関が実施する活動、自己研鑽と自己実現に資する活動などであって「知の市場」の理念を共有する活動。

多様な事情に応じ得る弾力性の確保

参画者の連携強化の方策

1. 知の市場の理念・基本方針の公開
2. 諸規定の充実と公開
3. 運営体制の簡素化・効率化と協働関係の強化
 - 1) マニュアルや受講修了証などの諸様式の標準化
 - 2) 「知の市場」のロゴマークの統一
 - 3) 共通受講システムの導入
 - 4) 参画機関のHPの整備と相互リンク
4. 学生・院生の若い力と社会人有志の経験を積極的に活用

**理念を共有しつつ各機関の主体性の尊重
規範の統一と手段の標準化による連携強化**

規定による協働関係の強化

知の市場—理念と運営—

応募及び受講に関する規定

応募にあたっての留意点に関する細則

応募方法に関する規定

成績評価及び受講修了証などの発行に関する規定

奨励賞の授与に関する規定

連絡方法に関する規定

受講者、講師等への連絡方法に関する細則

受講者及び講師のアンケートに関する規定

知の市場友の会規約

認識の共有化のため規範の明確化と公開

要領による運営体制の簡素化・効率化

業務及び年間予定に関する要領

開講機関と開催地の表記及び科目の分類と表示に関する要領

ホームページの開設及び共通受講システムの導入に関する要領

広報に関する要領

ID及びパスワードの設定並びに管理に関する要領

講義資料の作成及び知的財産権の扱いに関する要領

講義の準備と進め方に関する細目

資料などの保管及び電子的方式でつくられる資料の名称付けに関する要領

受講修了証の作成及び発行の方法及び手順に関する要領

年次大会の開催に関する要領

知の市場奨励賞の授与の決定手順及び選考基準に関する要領

活動の合理化のため手段や様式の標準化と共有

教育の基本方針

1. 総合的な学習機会の提供

**大学院水準のしっかりとした
自己研鑽の機会の提供**

社会においてそれぞれの立場で役割を果たす人材の育成に資するため、現代の社会と世界の動向を理解するために必要な広範な領域を学ぶ機会を提供

2. 実践的な学習機会の提供

専門機関・研究機関、産業界、NPO・NGO、大学との連携により、実務経験を豊富に有する者が講師として参画し、実社会に根ざした学ぶ機会を提供

3. 十分な情報提供と受講者の自己責任による自由な科目選択

受講者の的確な科目選択に資するため、科目を分野別、水準別に分類して明示し、講義内容や講師などの情報、講座の計画と実績に関する情報など詳細な情報を提供したうえで、受講者自身が自らの必要に応じて自らの判断と責任で科目を選択

4. 大学・大学院に準拠した厳しい成績評価

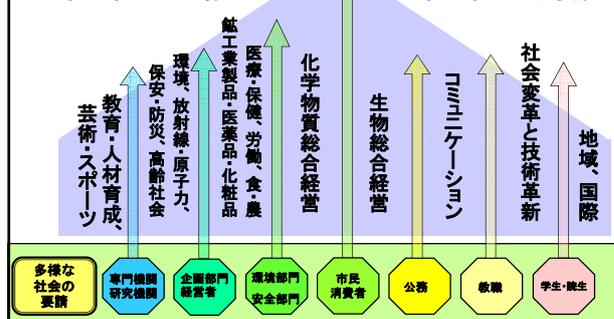
応募動機の確認から始まり、講義毎に出席を確認し15回小レポートを提出。最終レポートを提出。大学・大学院に準拠した基準に従い、出席状況と最終レポートを評価して所定の基準を満たした受講者に対しては科目毎に受講修了証を交付

総合的な学習機会の提供

—多様な社会人の幅広い要請に応える場—

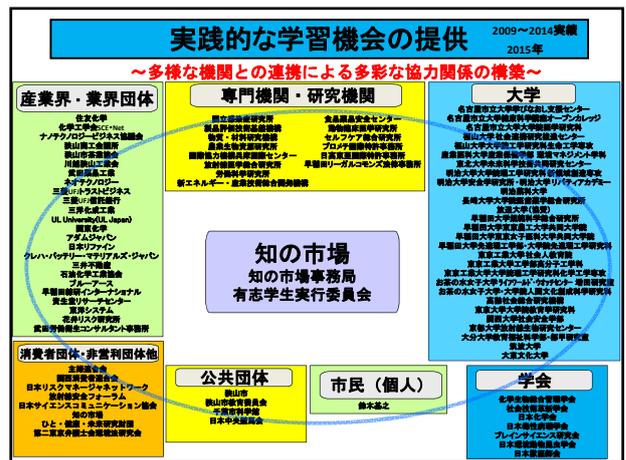
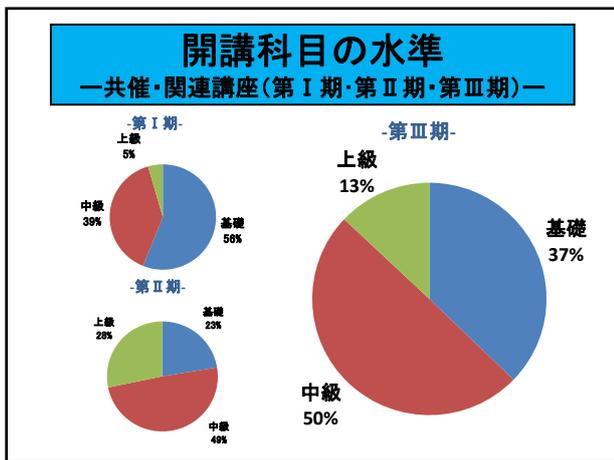
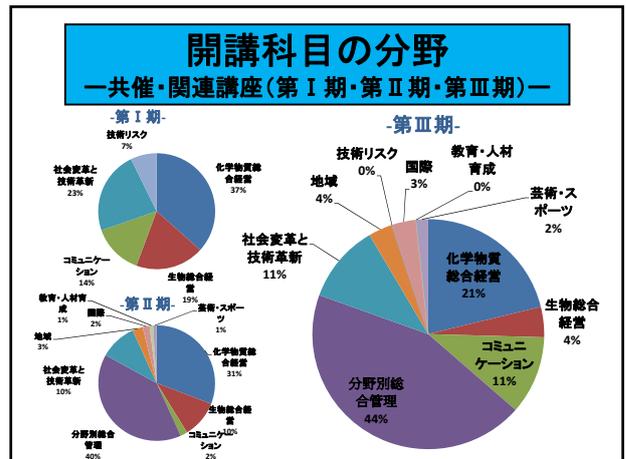
それぞれの立場

それぞれの必要性



開講分野の科目分類

大分類	中分類	
共催講座	1.化学物質総合経営	4 分野別総合管理
	2.生物総合経営	1) 医療・保健
	3.コミュニケーション	2) 労働
	4.分野別総合管理	3) 食・農
	5.社会変革と技術革新	4) 鉱工業製品・医薬品
	6.地域(2011年度新設)	5) 環境
	7.国際(2012年度新設)	6) 放射線・原子力
	8.教育・人材育成(同上)	7) 保安・防災
	9.芸術・スポーツ(同上)	8) 歴史
関連講座	5 社会変革と技術革新	
	1) 技術革新	
	2) 物質材料・化学技術	
	3) 資源・エネルギー	
4) 金融・三次産業ほか		
5) 知的財産・特許		
6) 基準・認証・標準・試験		
7) 法制		
8) 歴史		
敬養編		
専門編		
研修編		
大学・大学院編		



十分な情報提供と 受講者の自己責任による自由な科目選択

応募者の科目選択に資するための十分な情報提供

科目の分野別・水準別分類
講義内容や講師の詳細な情報を記した各科目のシラバス
開講機関や知の市場全体についての講座の計画と実績

(1) 知の市場をはじめ、開講機関・連携機関などのホームページ <http://www.chinoichiba.org/>
科目内容、科目の詳細、講師の詳細、講義の計画・実績、募集要項、応募申込書

ホームページの充実

(2) メールによる案内
現在及び過去の受講者や講師で構成する「知の市場友の会」へのメール配信
開講機関・連携機関によるメール配信
協力機関によるメール配信

(3) パンフレット、ポスター
知の市場事務局による作成
開講機関・連携機関による作成と配布

(4) 口コミ
個人間の口コミ、上司や所属組織・教育部門からの指示・推奨、その他多様伝達など

(5) 報道
新聞、雑誌の記事掲載など

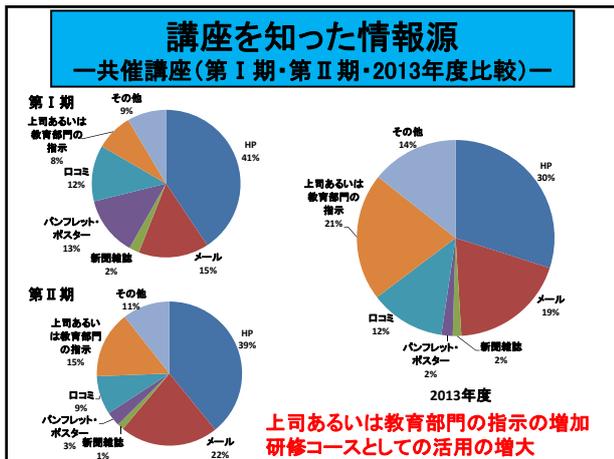
多様な媒体を活用した
徹底的な情報開示

科目の詳細：シラバス(例)

詳細な情報提供
納得した上での受講

科目名	科目の概要・目的・目標	科目の水準	科目の名称	講義の概要・目的・目標	講師名・所属機関名	講義日時
化学物質総合経営	化学物質の総合的な管理の重要性を理解し、その実践的な知識とスキルを習得する。	基礎	化学物質総合経営	化学物質の総合的な管理の重要性を理解し、その実践的な知識とスキルを習得する。	佐藤 隆夫	18.10.20
コミュニケーション	コミュニケーションの重要性を理解し、その実践的な知識とスキルを習得する。	中級	コミュニケーション	コミュニケーションの重要性を理解し、その実践的な知識とスキルを習得する。	佐藤 隆夫	18.10.20
社会変革と技術革新	社会変革と技術革新の重要性を理解し、その実践的な知識とスキルを習得する。	中級	社会変革と技術革新	社会変革と技術革新の重要性を理解し、その実践的な知識とスキルを習得する。	佐藤 隆夫	18.10.20

*) 詳細は、知の市場HP (<http://www.chinoichiba.org/>) をご覧下さい。



大学・大学院に準拠した厳しい成績評価

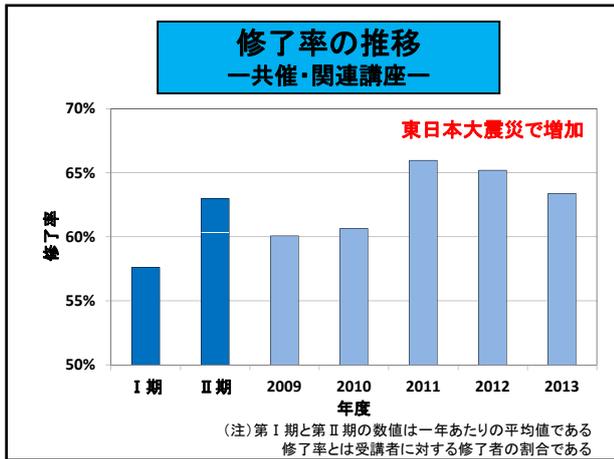
(1)-1 毎回の授業毎に出席状況を厳格に管理
 (1)-2 毎回の授業毎に理解度確認のため小レポート提出
 (1)-3 科目終了時に、最終レポートを提出

(2) 受講者の成績評価は、大学の学部・大学院の採点評価基準に準拠して評価

① 出席50点満点、レポート50点満点の合計で採点
 ② 出席点は15回の出席で満点とし、それより少ない出席日数の場合は、出席日数に応じて減点し、出席回数7回以下の場合は履修放棄とみなす。
 ③ レポート点は講義内容の理解度1、2、3自らの考えや主張、論理性や特筆すべき点ごとに個別に評価し、加点する。

(3) 所定の基準を満たした受講者に対しては科目毎に受講修了証を交付

A(80~100点)、B(70~79点)、C(60~69点)を合格とし、
 Aのうち特に優秀な者をSと判定。 **大学院水準のしっかりとした教育**



開講状況の推移 — 第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期平均 —

(開講機関・連携機関・友の会・協力機関)

年度	第Ⅰ期 (2004-2008年度)	第Ⅱ期 (2009-2012年度)	第Ⅲ期 (2013-2015年度)
開講拠点	2	29	40
開講機関・連携機関	26	41	58
開講機関	2	30	40
連携機関	25	38	44
友の会会員	2857	3333	4874
協力機関	0	64	82

注1: 開講・連携機関の合計の値は、開講機関と連携機関の値の合計を示すが、両方の役割を担っている機関を1つの機関として計上するため、それぞれの値の単純合計とは合致しない。
 注2: 第Ⅲ期の友の会会員、協力機関の値は、2013年度末の数値と2014年6月5日現在の数値の平均を示す。

知の市場(共催・関連講座:合計)

新たな教育のための社会インフラ

年度	拠点	科目	講師	応募者	受講者	修了者
第Ⅲ期 2013-2015	121	239	1948			
第Ⅱ期 2009-2012	115	393	2500	13849	13609	8500
第Ⅰ期 2004-2008	6	221	1731	6017	5957	3307
第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期 合計	853	6179	19866	19866	19566	11807

注)ただし、応募者、受講者、修了者は第Ⅰ期・第Ⅱ期の合計。

知の市場(共催・関連講座:期平均)

新たな教育のための社会インフラ

年度	拠点	科目	講師	応募者	受講者	修了者
第Ⅲ期 2013-2015	40	80	652			
第Ⅱ期 2009-2012	29	85	625	3462	3407	2121
第Ⅰ期 2004-2008	2	44	346	1203	1191	661

第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期の平均値

知の市場の意義(1)

多様な人々に
他に例のない学習の場

経済的理由による
教育機会喪失
の防止



無料・廉価な
受講料

知の世界の拡大の系譜

- 好奇心指向型(キュアロシティ・ドリブン)
- 欲求指向型(デザイア・ドリブン)
20世紀初頭～
- 戦略(構想)指向型(シナリオ・ドリブン)
20世紀第4四半期～

知の爆発

知の世界の構図 —20世紀の変化—

◎ 知の世界

良循環の形成

◎ 知の時代

均衡の確保

- ☆ 知の創造
- ☆ 知の伝播
- ☆ 知の活用
- ☆ 知の爆発
- ☆ 知の普遍
- ☆ 知の暴走
- ☆ 知の制御

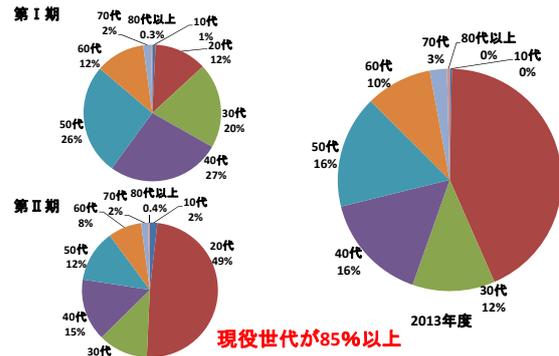
知の偏在が人々の格差を生み社会を不安定化

重視

重視

年齢別応募者

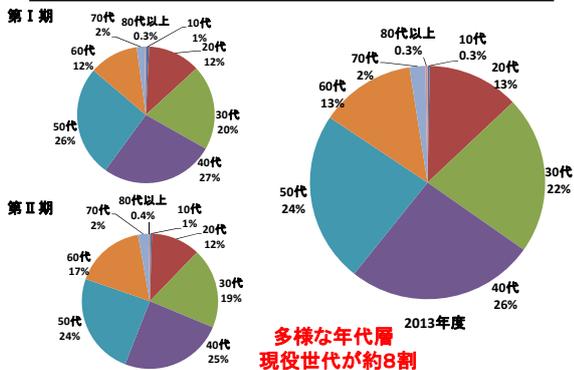
—共催・関連講座(第Ⅰ期・第Ⅱ期・2013年度比較)—



現役世代が85%以上

年齢別応募者

—共催講座(第Ⅰ期・第Ⅱ期・2013年度比較)—



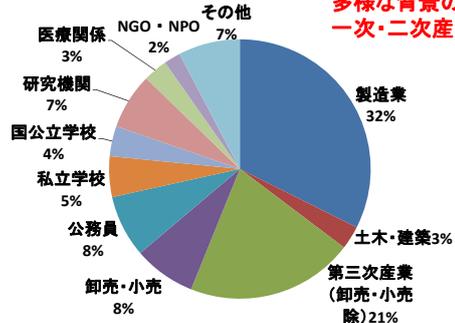
多様な年代層
現役世代が約8割

受講者の所属組織の分野別割合

—共催講座(第Ⅰ期・第Ⅱ期・2013年度比較)—

全2054組織から延べ8269名が受講:1組織あたり受講者4名

多様な背景の受講者
一次・二次産業で過半



知の市場の意義(2-1)

1. 職業人が職業に活用するのに有効



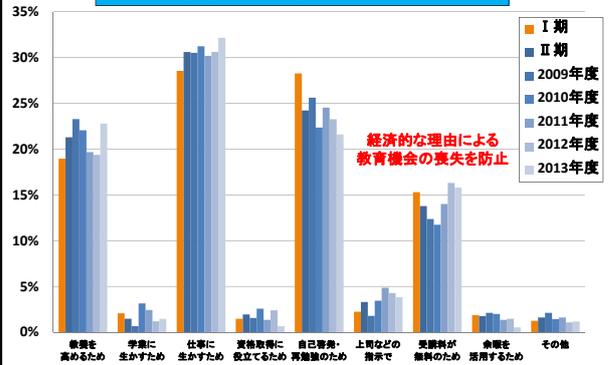
2. 個人が教養を高めるのに有益



他に例のない学習の場

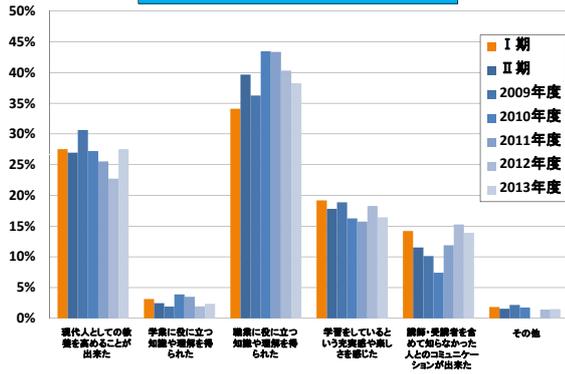
受講動機

— 共催講座: 受講者による評価 —



役に立った点

— 共催講座: 受講者による評価 —



知の世界の新展開

1. Science for Society
社会のための科学
2. Science for Policy
政策のための科学

20世紀第4四半期の
大転換・パラダイムシフト

戦略指向
シナリオ・ビジョン

21世紀以降の
世界と社会の指導理念

好奇心指向 Science on*by Curiosity*Desire 欲求指向

21世紀の世界の構図 — 20世紀第4四半期から勃興 —

実行

シナリオ
想定・戦略
オリエンテッド

科学的知見

論理的思考

規範科学の構図

科学的知見

論理的思考

社会的規範

条約、法律、
自主管理、
慣例、慣習、常識...

科学と規範の結合

先導的に生活・社会・世界を変革

レギュラトリー・サイエンス 規範科学

1. Science for/of Regulation
規範のための科学

2. Regulation on/by Science
科学に基づく規範 (Evidenceベース)

シナリオ(戦略)指向型の新たな事象 — 20世紀 第4四半期以降 —

1. 化学物質の総合管理
 2. オゾン層の保護 オゾン層破壊物質の管理
 3. 地球温暖化の防止 温暖化係数を持つ化学物質の管理
 4. 組換え体の管理
 5. 新型インフルエンザの防疫
- ⋮

事前に十分な準備

着実に継続

資源の投入

科学的シナリオ・想定 に基づく包括的戦略

十分な知識

認識の共有

沈着・冷静な行動

科学的シナリオ・想定に
基づいて戦略的に動く
社会と世界

プロなくして、
法律の制定も運用も
企業や各セクターにおける
判断も行動もなし。

プロ人材の育成は 現状でよいのか??

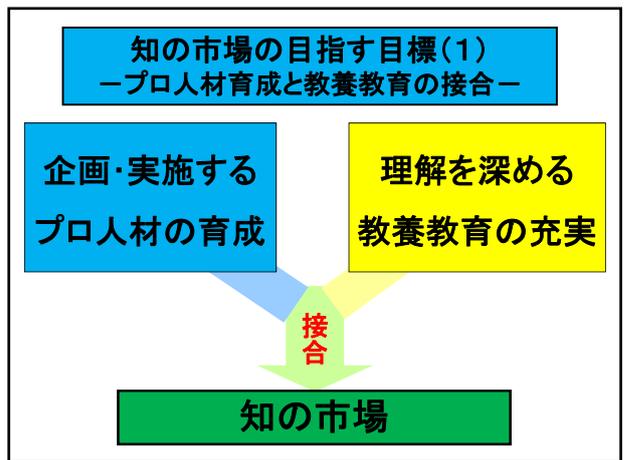
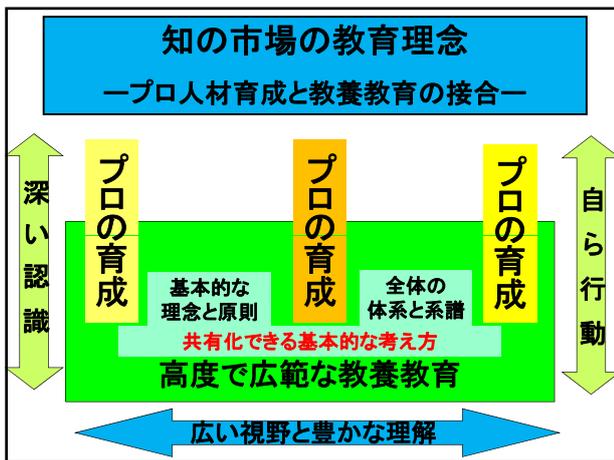
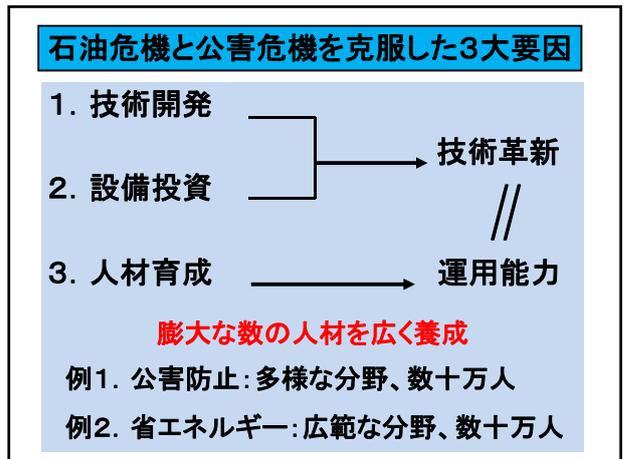
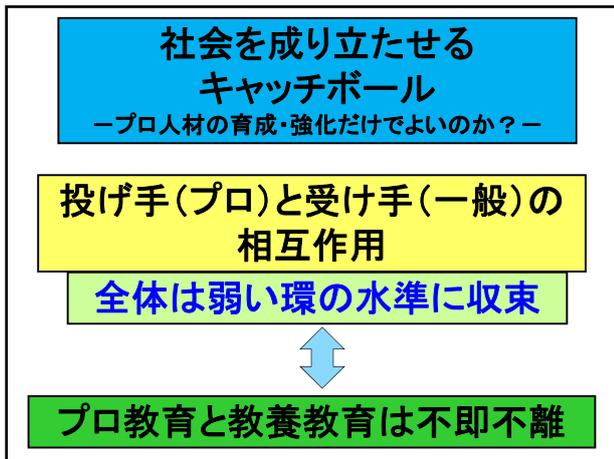
幅広い知識の体系と系譜を理解し(=教養)
専門知識の**意味**を語れずして、
信頼できる判断をし、社会を動かし得る
プロではありえず

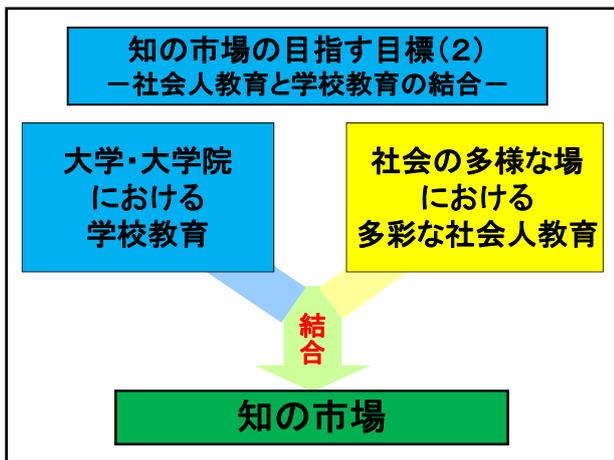
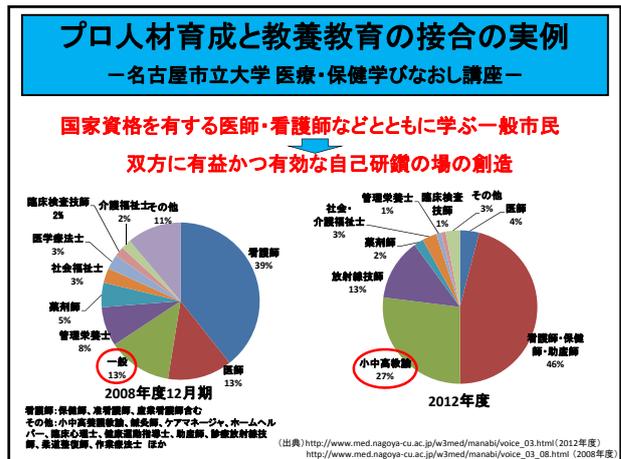
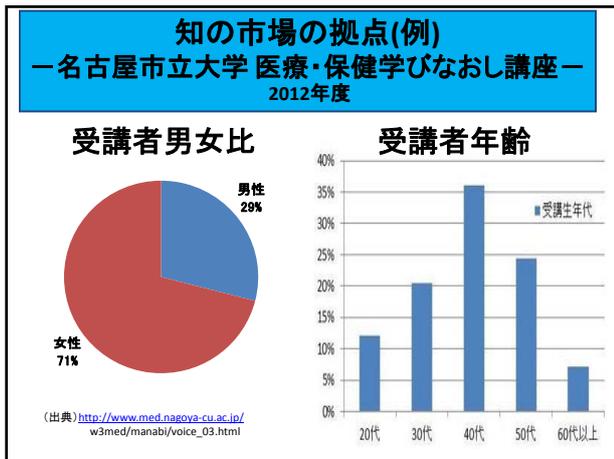
知の市場の意義(2-2)

プロ人材の育成と教養教育の接合

社会人教育と学校教育の連結

他に例のない学習の場





社会人教育から学校教育への展開(2014年度)

社会人教育の科目が同時に大学・大学院教育に活用されている事例 **合計5科目**

社会人教育としての科目	大学・大学院教育としての科目	実施大学・大学院
規範科学事例研究1		
化学物質総合経営学事例研究1	リスク管理(演習)	お茶の水女子大学
法学入門		
安全学入門	安全学特論1	明治大学大学院理工学研究科 新領域創造専攻
製品機械安全特論	新領域創造特論3	

社会人教育から学校教育への展開(2014年度)

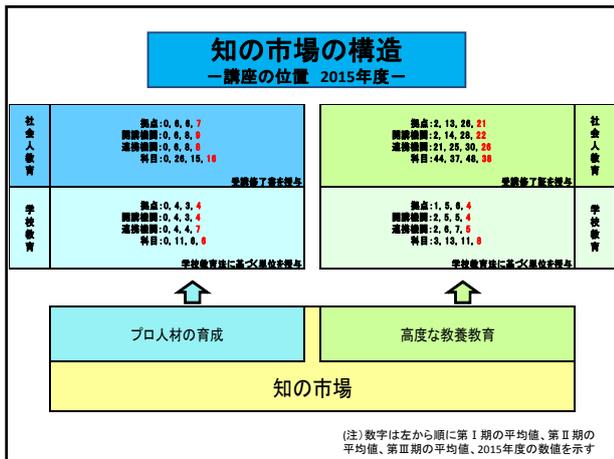
社会人教育の内容や講師が大学・大学院教育に活用されている事例 **合計14科目**

大学・大学院教育としての科目	実施大学・大学院
化学物質総合管理学	早稲田大学 理工学術院 先進理工学研究科 共同先進健康科学専攻
食農総合管理学	
生命科学概論A(建築・電子光学・経営・資源・社会工学)	
生命科学概論A(総合機械)	早稲田大学 理工学術院 先進理工学部
生命科学概論B(化学・応用化学)	
生命科学概論B(生命医科)	
社会技術革新学	お茶の水女子大学
規範科学	
サイエンスコミュニケーション実践論	筑波大学大学院
リスクコミュニケーション入門	
資源・エネルギー・安全論	東京工業大学大学院 理工学研究科 化学工学専攻
社会技術革新論a	大分大学教育福祉科学部
化学物質総合管理論a	
日本力論b	鹿児島水産高等学校

学校教育から社会人教育への展開(2014年度)

大学・大学院教育の科目が同時に社会人教育に活用されている事例 **合計5科目**

大学・大学院の教育としての科目	実施大学・大学院	社会人教育としての科目
社会技術革新学	東京・お茶の水女子大学	社会技術革新学基礎論
規範科学		規範科学基礎論
サイエンスコミュニケーション実践論	筑波大学大学院	サイエンスコミュニケーション実践論
リスクコミュニケーション入門		リスクコミュニケーション入門
資源・エネルギー・安全論	東京・東京工業大学大学院	資源・エネルギー・安全基礎論



知の市場の意義の拡大(1)

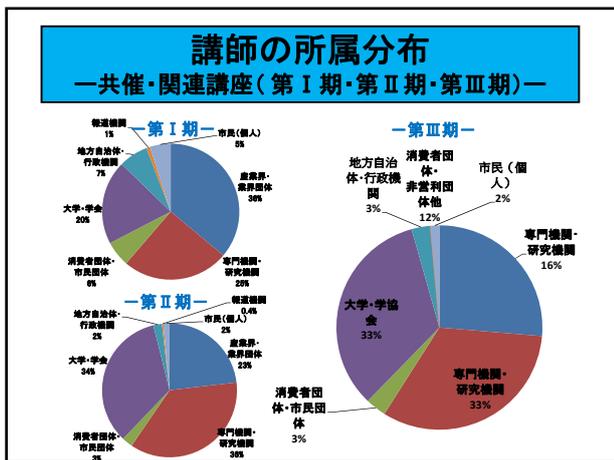
1. 現役世代を中心とする幅広い年代、職業、地域の多様な人々に対して、総合的で実践的な学習機会を広く社会において提供する。
2. プロ人材の養成のみならず、幅広い高い水準の教養教育の場としても機能し、学校教育と社会人教育を繋ぐ。

+

3. 実社会での経験を活かしたい幅広い分野の多彩な人々に、講師として現場を基点にしつつ教育に参画する機会を提供する。

↓

社会の多様性を反映する教育活動



知の市場の意義の拡大(2)

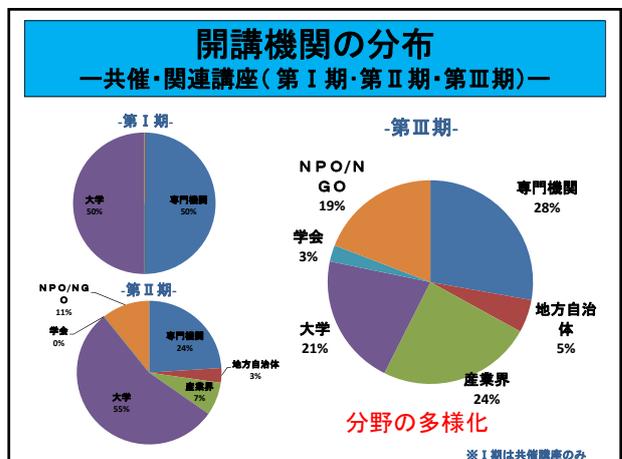
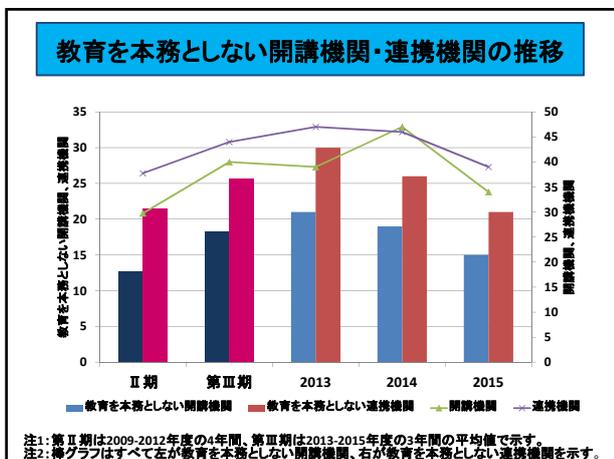
1. 現役世代を中心とする幅広い年代、職業、地域の多様な人々に対して、総合的で実践的な学習機会を広く社会において提供する。
2. プロ人材の養成のみならず、幅広い高い水準の教養教育の場としても機能し、学校教育と社会人教育を繋ぐ。
3. 実社会での経験を活かしたい幅広い分野の多彩な人々に、講師として現場を基点にしつつ教育に参画する機会を提供する。

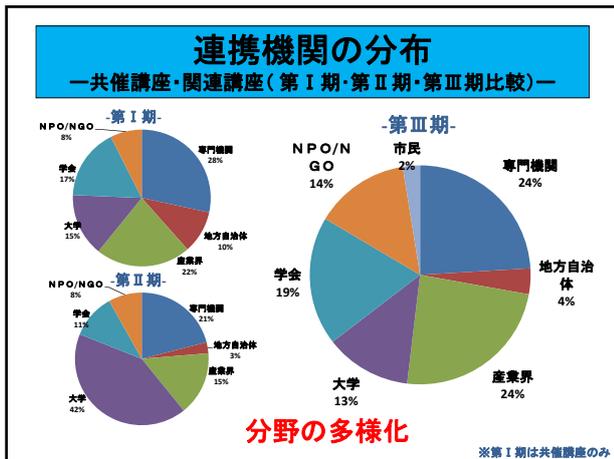
+

4. 教育を本来業務としない多岐にわたる個人や組織、或いは、従来、教育に無縁な個人や組織が、自発的に教育に参画し自主的に活動する。

↓

社会の全員が参画する教育活動





- ### 知の市場の意義の拡大(3)
1. 現役世代を中心とする幅広い年代、職業、地域の多様な人々に対して、総合的で実践的な学習機会を広く社会において提供する。
 2. プロ人材の養成のみならず、幅広い高い水準の教養教育の場としても機能し、学校教育と社会人教育を繋ぐ。
 3. 実社会での経験を活かしたい幅広い分野の多様な人々に、講師として現場を基点にしつつ教育に参画する機会を提供する。
 4. 教育を本来業務としない多岐にわたる個人や組織、或いは、従来、教育に無縁な個人や組織が、自発的に教育に参画し自主的に活動する。
- +
- 5. 全国の津々浦々で諸々の役割を担う社会の現場の全てが教育の現場としてもそれぞれ多彩な輝きを放つ**
- ↓
- 全国の全ての現場が参画する教育活動**

知の市場の地域別拠点 2014年度

・東京 お茶の水女子大学(Iwwo)/学部、茗荷谷、西早稲田(1)労研、西早稲田(2)主幹道、幡ヶ谷、早稲田大学理工学部/共同先進健康科学専攻、早稲田駅、戸山、日本橋區町、丸の内、九段、大岡山、関西大学東京センター、四ツ谷(1)主幹道、四ツ谷(2)生物研、八重洲、明治大学理工学研究科、放送大学文京学習センター、日本中央競馬会、筑波大学東京キャンパス、 大学大学院、東京工業大学理工学研究科	24拠点
・埼玉 狭山、狭山元氣プラザ	2拠点
・神奈川 川崎官前区	2拠点
・千葉 千葉	1拠点
・愛知 名古屋市立大学(1)最新医学、名古屋市立大学(2)学びなおし	2拠点
・京都 京都大学	1拠点
・大阪 千里山、関西大学高槻	2拠点
・鳥取 倉吉	1拠点
・大分 大分大学	1拠点
・福島 いわき	1拠点
・鹿児島 鹿児島、枕崎	2拠点

第12回協議会後に追加された拠点・科目

1.大分県大分大学	大学大学院編	2科目
2.大分県大分市	教養編	1科目
3.大分県 ふないまちなか大学		1科目
4.滋賀県彦根市		1科目
5.大阪府大阪市		1科目
6.福島県田村市		1科目
7.香川県海音寺市		1科目
8.兵庫県加東市		1科目
		15拠点+8拠点

ふないまちなか大学

— 大分県内の新たな動き —

ふないまちなか大学
セントポルタ中央町アーケード (大分市中央町1-1-13)
イスラムとアラブを知るための科目
家庭科力を高める科目

大分・〇〇まちなか大学
別府まちなか大学
湯布院まちなか大学
中津まちなか大学
杵築まちなか大学

↑

一村一人運動

↑

一村一品運動

ふないまちなか大学

— 家庭科力を高める科目シラバス案 —

科目名	単位数	履修条件	担当教員	開講時期	備考
イスラムとアラブを知るための科目	1		山本 浩一	2014年度 春学期	大分県立大分大学 大分市中央町1-1-13 セントポルタ中央町アーケード
家庭科力を高める科目	1		山本 浩一	2014年度 春学期	大分県立大分大学 大分市中央町1-1-13 セントポルタ中央町アーケード

開講拠点—2014年度共催・関連講座(1)—		51拠点 ←39拠点	
18拠点		33拠点	
共催講座開講拠点	～22拠点	関連講座開講拠点	～17拠点
東京・お茶の水女子大学	東京・茗荷谷		
東京・放送大学文京学習センター	愛知・名古屋国立大学(1)最新講学		
東京・西早稲田(1)労研	東京・筑波大学東京キャンパス		
埼玉・秩山	千葉・千葉		
東京・丸の内	鹿児島・鹿児島		
鳥取・倉吉	鹿児島・牧崎		
大阪・千原山	大分・大分大学		
東京・戸山	大分・大分		
東京・日本橋室町	神奈川県・川崎高津区		
京都・京都大学放射線生物研究センター	東京・早稲田		
東京・九段	東京・関西大学東京センター		
東京・大岡山	東京・池袋		
大阪・関西大学高槻	東京・四ツ谷(3)生協館		
東京・西早稲田(2)	京都・京都大学放射線生物研究センター		
東京・四ツ谷(1)主簿室	愛知・名古屋国立大学(2)学びなほ		
東京・幡分谷	東京・明治大学		
東京・八重洲	神奈川県・川崎高津区		
東京・四ツ谷(2)生物研	埼玉・秩山元氣プラザ		

知の市場の意義の拡大(4)

1. 現役世代を中心とする幅広い年代、職業、地域の多様な人々に対して、総合的で実践的な学習機会を広く社会において提供する。
2. プロ人材の養成のみならず、幅広い高い水準の教養教育の場としても機能し、学校教育と社会人教育を繋ぐ。
3. 実社会での経験を活かしたい幅広い分野の多様な人々に、講師として現場を基点にしつつ教育に参画する機会を提供する。
4. 教育を本来業務としない多岐にわたる個人や組織、或いは、従来、教育に無縁な個人や組織が、自発的に教育に参画し自主的に活動する。
5. 全国の津々浦々で随々の役割を担う社会の現場の全てが教育の現場としてもそれぞれ多様な動きを放つ。

+

6. 自由な意思を持った人々の自発的で主体的な参画により、自立的であつ自律的な活動を永続的に展開

↓

全国の全ての人が自己研鑽と自己実現の機会を持つ教育活動

有志学生実行委員会

合計29名

講師・連携機関・開講機関・協力機関のボランティア活動に続く新たな動き

学生実行委員	お茶の水女子大学	東京大学	顧問
	岩崎紀子	新藤雅月子	
	岡野由紀子	川内真由	
	佐村真穂子	栗田節	
	藤井聡子	藤口尚子	
	松崎志枝	松崎かほる	
	三上麻希子		
	金子雄	吉原有星	
	東京久美子		
	非林幸将 (特別)		
	真神真紀子 (特別)		
	新井麻子		
	原香しのぶ		
	原真史 (特別)		
	原真史 (特別)		
	高田有香		
	神田真由		
	北林智		
	武田雅夫 (特別)		
	藤口俊一		
	藤田千重		
	山崎徹		
	牧田敏子 (川崎)		
	藤田和子 (特別/バウニア)		

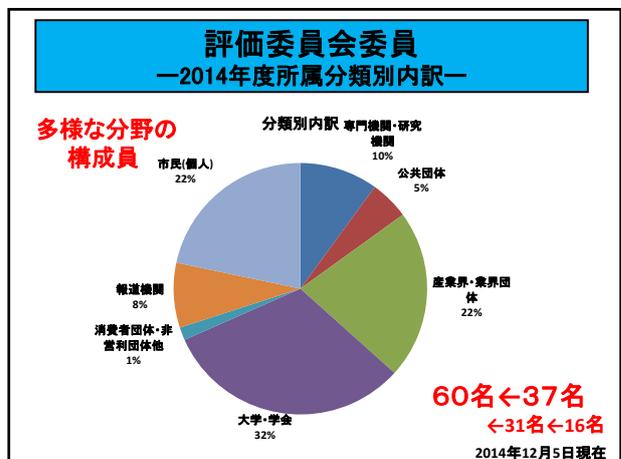
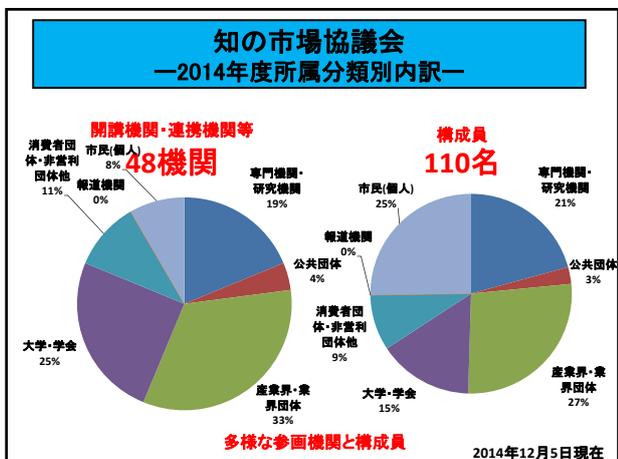
国内 15名
 都内 8名
 都外 6名
 海外 1名
 男性 8名
 女性 7名

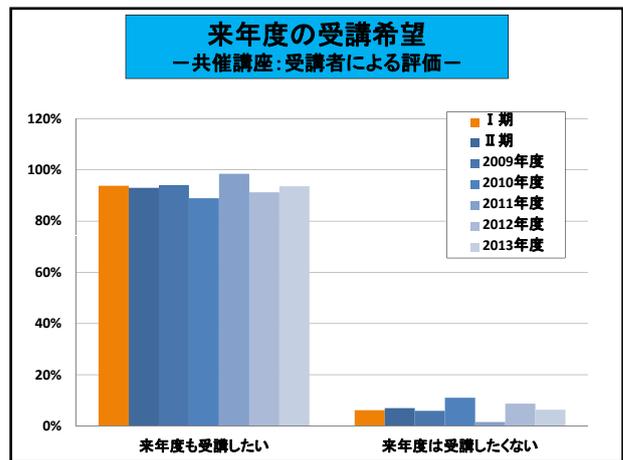
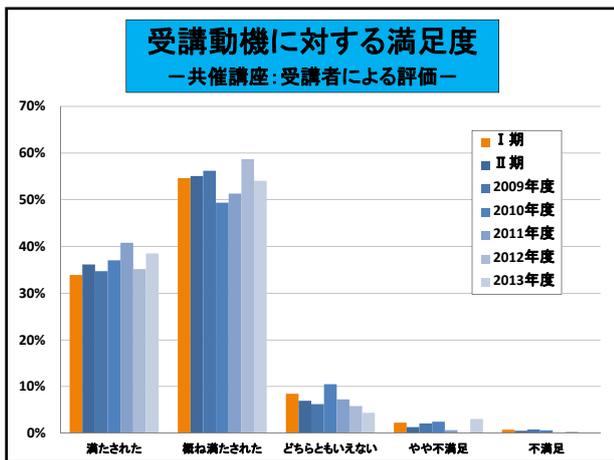
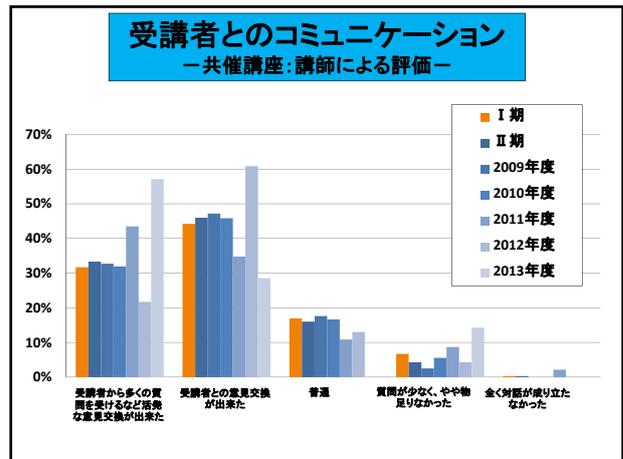
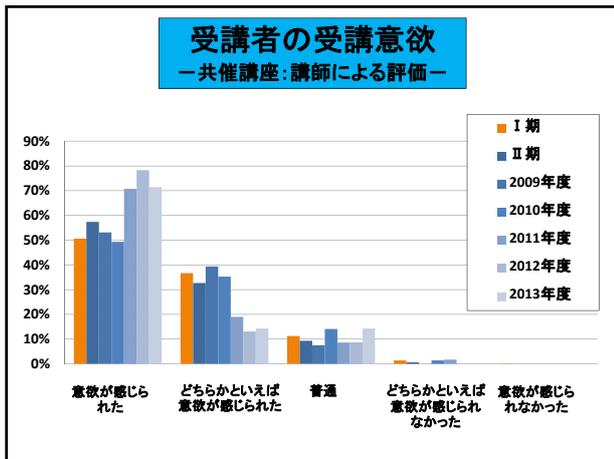
海外

2014年12月5日

自己点検・外部評価

- I. 自己点検評価
 1. 協議会による評価
 2. 受講者や講師による評価
 - ①講師による科目評価
 - ②受講者による講義評価
 - ③受講者による科目評価
- II. 外部評価
 1. 評価委員会による評価
 2. 年次大会・奨励賞





年次大会の目的と構成

1. 目的

- 1) 年次大会は、知の市場の運営に携わる関係者が当年度の活動の実績や次年度の開講科目計画などを広く社会に対して公開して検証を受ける場を提供する。
- 2) 関係者が密接なコミュニケーションを行い認識の共有化を促進する場を提供する。

公開による外部評価
認識の共有化

2. 構成

- 1) 開講機関及び連携機関の活動の計画及び実績の報告
- 2) 奨励賞の授与及び記念講演
- 3) 特別講演
- 4) 知の市場の活動報告



奨励賞の授与 —実績—

年度	受講者		講師	参画・協力機関	
	個人	機関		開講／ 連携機関	連携機関 のみ
2010	1	—	0	3	0
2011	0	—	3	2	1
2012	0	—	5	1	0
2013	0	1	2	0	0
2014	0	0	1	0	0
合計	1	1	11	6	1

(2014年12月5日現在)

受講者の多い組織上位10傑

—共催講座 第I期・第II期・2013年度—

全2054組織から延べ8269名が受講：1組織あたり受講者4名

順位	所属名称	延べ 人数	順位	所属名称	延べ 人数
1	お茶の水女子大学	200	6	早稲田大学	66
2	花王	114	7	ADEKA(旭電化工業)	63
3	ライオン	90	8	動物臨床医学研究所	61
4	新エネルギー・産業技術 総合開発機構(NEDO)	75	9	出光興産	59
4	旭硝子(AGC)	75	9	住友ベークライト	59

知の市場の意義の拡大

1. 現役世代を中心とする幅広い年代、職業、地域の多様な人々に対して、総合的で実践的な学習機会を広く社会において提供する。
2. プロ人材の養成のみならず、幅広い高い水準の教養教育の場としても機能し、学校教育と社会人教育を繋ぐ。
3. 実社会での経験を活かしたい幅広い分野の多様な人々に、講師として現場を基点にしつつ教育に参画する機会を提供する。
4. 教育を本来業務としない多岐にわたる個人や組織、或いは、従来、教育に無縁な個人や組織が、自発的に教育に参画し自主的に活動する。
5. 全国の津々浦々で諸々の役割を担う社会の現場の全てが教育の現場としてもそれぞれ多様な輝きを放つ。
6. 自由な意思を持った人々の自発的で主体的な参画により、自立的でかつ自律的な活動を永続的に展開



「真の教育立国」の新展開

人間力

—真の教育立国—

マザー工場

時間的な継承
空間的な伝搬

工場・旅館・レストラン・・・
農家・漁師・運転手・・・
商店街・・・



全国の津々浦々の
全ての現場が
世界・社会の中で教育機関として機能

現場で働く者=教える者
学ぶ者は現場で働く場

知の市場

門柱は2本
○○事業所・○○教育所(学校)

知の市場の今後の展開

1. 恒常的な教育内容の向上
2. 全国の津々浦々の現場が参画



社会の現場を基点にした
自立的にして自律的な
自己研鑽と自己実現の基盤の構築

知の市場の今後の課題(1)

1. 分野の拡大と連携機関の拡充

- 1) 現代社会と世界動向を理解するために必要なより広範で総合的な自己研鑽の機会の提供
- 2) 多様な連携機関の参画を拡大し、多彩な講師による多岐にわたる科目の開講

2. 拠点の全国展開と開催機関の拡充

- 1) 自己研鑽の機会の日常化と普遍化を促進
- 2) 多様な開講機関の参画を拡大し、開講拠点の多彩化と全国化を促進

津々浦々の教育参画

知の市場の今後の課題(2)

3. 参画機関の機能の強化

(1) 全機関

- 1) 参画機関の垣根を越えた協働・協力関係の構築
- 2) 活動基盤の強化と自立的な活動の拡充

(2) 教育機関(大学・大学院)の課題

- 1) 大学・大学院の履修科目とし単位取得の対象として活用
- 2) 大学・大学院の科目を社会人に開放するなど活用

4. 内外の教育を巡る新たな動きとの連携

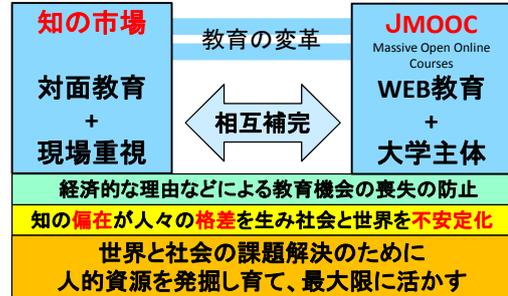
JMOOC・放送大学 他

5. 基盤の強化

- 1) 多彩な人々が自主的かつ主体的に参画する基盤を確立
- 2) 自立的かつ自律的に発展していくための活動基盤を確立

オープン・エデュケーション

—意義と特徴—



知の市場の展開

第0期: 黎明期(～2003年度)

第I期: 形成期(2004年度～2008年度)

第II期: 展開期(2009年度～2012年度)

第III期: 基盤完成期(2013年度～2015年度)

自己研鑽と自己実現のためボランティア活動の基盤構築

第IV期: 自立発展期(2016年度～)

完全にボランティア活動で運営する教育活動

「真の教育立国」の新展開

完

知の市場
—実績と計画—
(2013 年度実績と 2015 年度計画版)

1. 理念と運営

「知の市場(FMW : Free Market of・by・for Wisdom)」は、「互学互教」の精神のもと「現場基点」を念頭に「社会学連携」を旗印として実社会に根ざした「知の世界」の構築を目指して、人々が自己研鑽と自己実現のために集う場である。そして理念と基本方針を共有しつつ協働する受講者、講師、友の会、開講機関、連携機関、連携学会、協力者・協力機関、有志学生実行委員会、知の市場事務局などが自立的で解放的な協力関係を形成しながら、それぞれの立場を越えて自律的な判断により自ら活動する場 (Voluntary Open Network Multiversity) である。

「知の市場」は、大きな時代の潮流を先導し、社会人教育と学生や院生に対する学校教育とを切れ目なく連結し、さらにプロ人材の育成と高度な教養教育を相互に補完しあうものとして接合することを目指している。加えて、社会の全ての人々や組織が何らかの形で教育に関わり全員参加の中で各々の役割を果たして教育を支え、そして教育の世界と現実の世界が互いに重なり合いながら高めあっていく、そうした真の教育立国を求めている。それによって津々浦々で諸々の役割を担う社会の現場の全てが教育の現場としてもそれぞれ多彩な輝きを放つ社会の構築に向かって、道を切り開いていくことが知の市場の課題である。

「知の市場」は、総合的な学習機会の提供、実践的な学習機会の提供、十分な情報提供と受講者の自己責任による自由な科目選択、大学・大学院に準拠した厳しい成績評価という 4 つの教育の基本方針の下で活動する。そして開講機関が主催し連携機関の協力を得て知の市場とともに開講する共催講座と、共催講座での経験などを活かした活動、開講機関や連携機関が実施する活動、自己研鑽と自己実現に資する活動などであって開講機関が「知の市場」の理念を共有しながら独自に開講する関連講座で構成されている。

「知の市場」は、それぞれの機関や個人の自発的な参画と自主的な活動を基本に据えた理念の下、運営の基本方針、諸規定、運営体制などを公開している。そして受講修了証などの諸様式・マニュアルや「知の市場」のロゴマークなどの統一と標準化を進め、共通受講システムを共有しながら参画機関のホームページを相互にリンクすることなどにより協働の基盤を整備し、相互扶助と相互検証を通して連携の強化と教育水準の維持向上を図っている。

「知の市場」は、理念を構築し人の輪を形成し始めた黎明期（～2003 年度）を経て、化学生物総合管理の再教育講座としてお茶の水女子大学を拠点に第 I 期（2004—2008 年度）の活動を開始し、開講機関や連携機関などとの協力関係を拡充しつつ講師や受講者との人の輪を拡大して全国から大きな反響を得た。そして政府や大学からの資金提供などを求めず自主的かつ自発的な教育活動であることを鮮明に掲げた第 II 期（2009—2012 年度）には、視野を拡大しながら全国に開講拠点を拡大しつつ自主的な活動として知の市場を新展開した。これらの実績を踏まえながら、第 III 期（2013—2015 年度）は活動をさらに進化させることによって自立的かつ自律的な活動としての知の市場の確立を目指している。

2. 2015 年度開講計画

第Ⅰ期、第Ⅱ期に比べて第Ⅲ期の拠点数は増加しており、知の市場の全国展開と多様化が進展している。第Ⅰ期、第Ⅱ期及び第Ⅲ期の実績を踏まえつつ、第Ⅲ期の最終年度である 2015 年度は知の市場が目指す自立的にして自律的なボランタリー体制の完成に向けて取り組みを強化する。2015 年度は共催講座と関連講座を加えた全体で 553 名の講師陣の参画により全国 35 拠点で 70 科目を開講する。

表 1 開講状況の推移（拠点・科目・講師）

年度		第Ⅰ期	第Ⅱ期	第Ⅲ期	2015
共催講座	拠点	2(1)	15(4)	16(5)	9(4)
	開講科目	44	44	35	24
	講師	346	401	323	228
関連講座	拠点	—	14(5)	39(10)	26(10)
	開講科目	—	41	46	46
	講師	—	251	329	325
合計	拠点	2(1)	29(10)	40(15)	35(14)
	開講科目	44	85	80	70
	講師	346	625	653	553

注 1：第Ⅰ期の値は 2004～2008 年度の 5 年間の平均値、第Ⅱ期の値は 2009～2012 年度の 4 年間の平均値、第Ⅲ期の値は 2013～2015 年度の 3 年間の平均値を示す。

注 2：括弧内は東京以外の拠点数で内数。

（1）開講機関と連携機関

第Ⅰ期、第Ⅱ期に対して第Ⅲ期は順調に増加している。2015 年度の開講機関と連携機関の合計は 51 機関である。

開講機関と連携機関の内訳は、第Ⅰ期、第Ⅱ期に対して第Ⅲ期は現場基点の強化の流れにより産業界・業界団体、消費者団体・非営利団体他の割合が増加し、開講機関・連携機関の多様化が順調に進んでいる。

表 2 開講状況の推移（開講機関・連携機関）

年度		第Ⅰ期	第Ⅱ期	第Ⅲ期	2015
開講機関・連携機関		26	41	58	51
	開講機関	2	30	39	34
	連携機関	24	38	44	39

注 1：第Ⅰ期の値は 2004～2008 年度の 5 年間の平均値、第Ⅱ期の値は 2009～2012 年度の 4 年間の平均値、第Ⅲ期の値は 2013～2015 年度の 3 年間の平均値を示す。

注 2：開講・連携機関の値は、開講機関と連携機関の値の合計を示すが、両方の役割を担っている機関を 1 つの機関として計上するため、それぞれの値の単純合計とは合致しない。

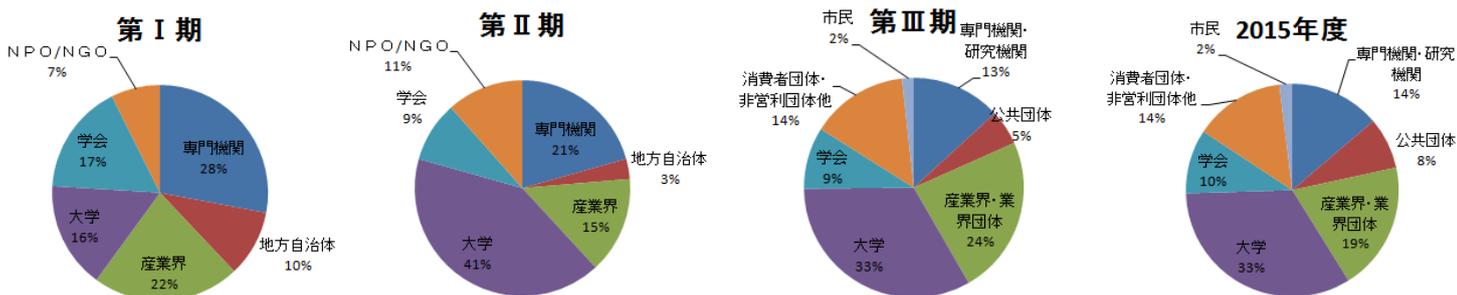


図1 開講機関と連携機関の内訳（第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2015年度）

1) 開講機関

第Ⅰ期、第Ⅱ期に対して第Ⅲ期は順調に増加している。2015年度の開講機関は共催講座が11機関、関連講座が28機関で、共催講座と関連講座の両方で科目を開講する機関の重複を除いた合計は34機関である。

開講機関の内訳は、第Ⅰ期、第Ⅱ期に対して第Ⅲ期は現場基点の強化の流れにより産業界・業界団体の割合が大幅に増加している。

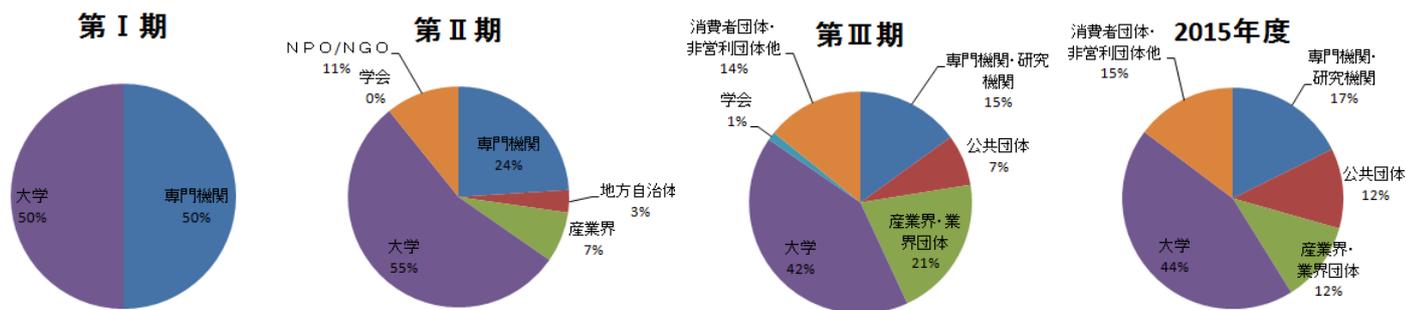


図2 開講機関の内訳（第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2015年度）

2) 連携機関

第Ⅰ期、第Ⅱ期に対して第Ⅲ期は順調に増加している。2015年度の連携機関は共催講座が17機関、関連講座が28機関で共催講座と関連講座の両方で科目を開講する機関の重複を除いた合計は39機関である。

連携機関の内訳は、第Ⅰ期、第Ⅱ期に対して第Ⅲ期は分野の多様性が一層進み、現場基点の強化の流れにより第Ⅱ期に減少していた産業界・業界団体が増加している。

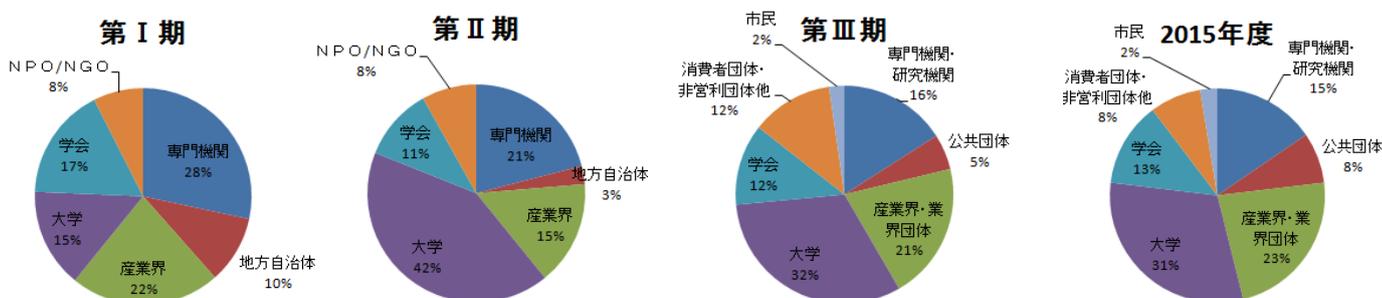


図3 連携機関の内訳（第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2015年度）

(2) 講師

第Ⅰ期に比べて第Ⅱ期は2.5倍に増加したが、第Ⅲ期はさらに増加して2013年度には769名に達した。2014年度からは1科目を多数の講師が担当するオムニバス形式の科目が減少して1科目をひとりの講師が担当する科目が大幅に増加したため講師の数は減少し、第Ⅲ期の平均は第Ⅱ期と同様な水準である。2015年度は講師陣として様々な実務経験を豊富に有する専門家553名が参画する。

1) 共催講座

第Ⅰ期、第Ⅱ期に対して第Ⅲ期は現場基点の流れの強化により専門機関・研究機関が増加し、第Ⅱ期に減少していた産業界・業界団体も増加しており実社会経験者が大勢を占めている。2015年度の共催講座の講師は228名である。

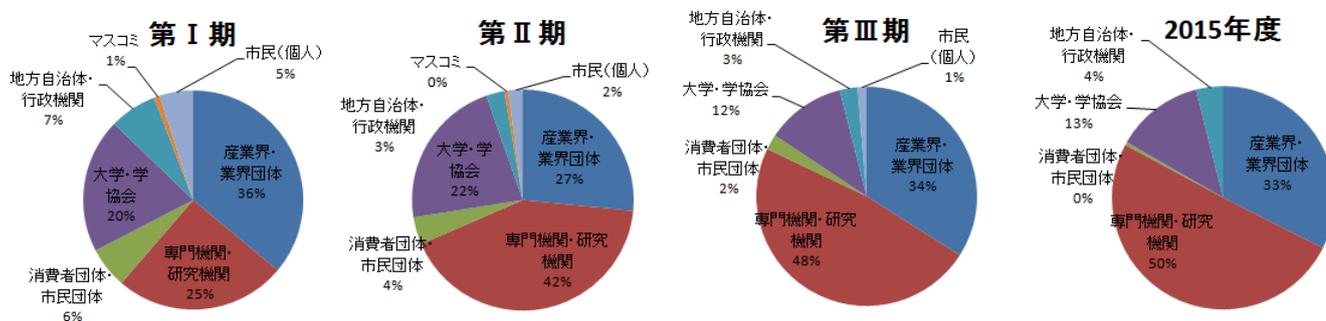


図4 講師の所属 (共催講座) (第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2015年度)

2) 関連講座

第Ⅱ期に対して第Ⅲ期は消費者団体・市民団体、地方自治体・行政機関などが増加した。2015年度の関連講座の講師は325名である。

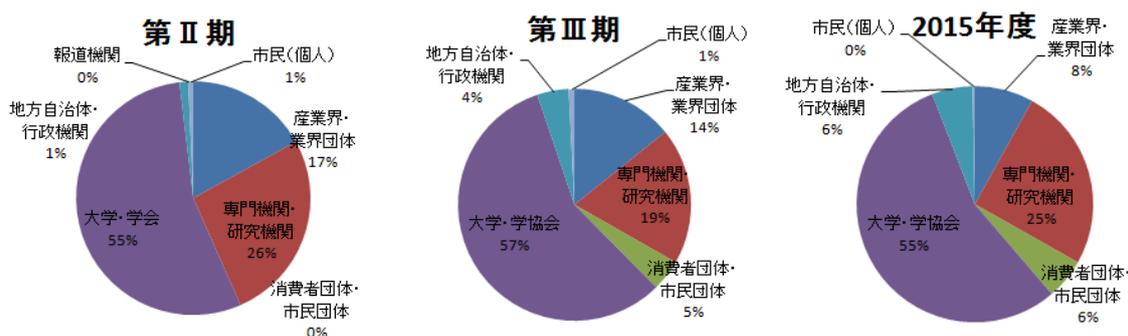


図5 講師の所属 (関連講座) (第Ⅱ期、第Ⅲ期、2015年度)

(3) 開講科目

共催講座と関連講座の科目数の合計は第Ⅰ期に対して第Ⅱ期にほぼ2倍に増加した後、第Ⅲ期は第Ⅱ期とほぼ同様な水準である。2013年度、2014年度はこの水準を維持していたが2015年度は70科目に減少する。

2014年度に引き続き共催講座の科目を分野別に分類して位置付けるとともに水準別に分類して位置付ける。関連講座は4つに分類して位置付ける。また、知の市場の構造に従って

科目を社会人教育と学校教育及びプロ人材の育成と高度な教養教育の組み合わせによる4つの象限に整理して位置付ける。

1) 共催講座

2010年度までが生物総合経営、コミュニケーション、総合（医療・保健、労働、食・農、鉱工業製品・医薬品、環境）、社会変革と技術革新の5つの大分類で構成していたのに対して、2011年度に地域の1分野を、2012年度に国際、教育・人材育成、芸術・スポーツの3分野を追加して9つの大分類とした。第Ⅲ期はさらに開講する領域の多様化と均等化が進んでいる。

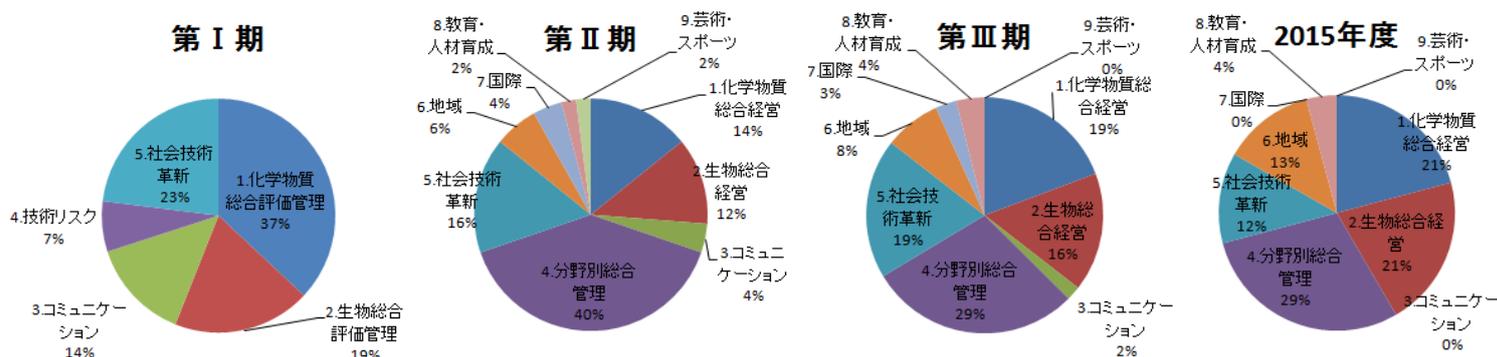


図6 開講科目（共催講座）の大分類（第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2015年度）

また、基礎、中級、上級の3つの水準に科目を分類して比較すると、第Ⅰ期から第Ⅱ期に移る際に名古屋市立大学の医療に関する上級科目の開講などにより基礎が減少して上級が増加したが、第Ⅱ期から第Ⅲ期に移るにあたっては基礎、中級の割合が増加し、2015年度は中級が大勢を占めている。

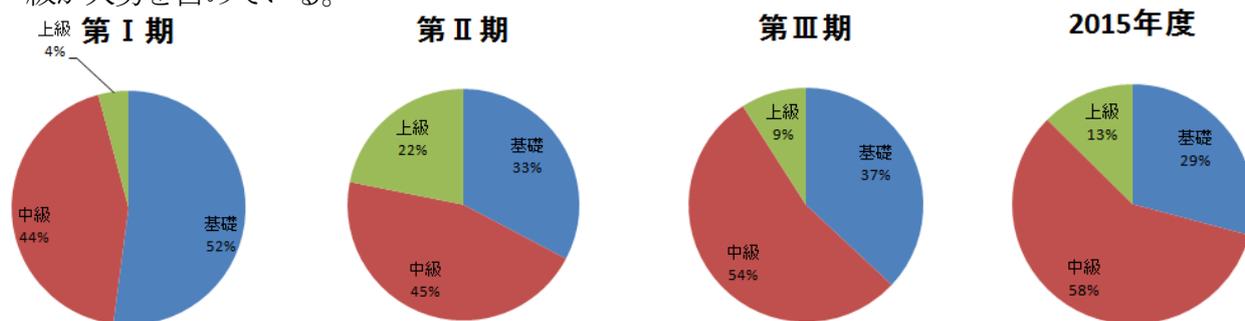


図7 開講科目（共催講座）の水準（第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2015年度）

2) 関連講座

関連講座は第Ⅰ期には存在せず第Ⅱ期から開講した。教養編、専門編、研修編、大学・大学院編の4つに分類して比較すると、第Ⅱ期に比べて第Ⅲ期は大学・大学院編が減少する一方で、教養編の割合が大幅に増加して多様化が進んでいる。

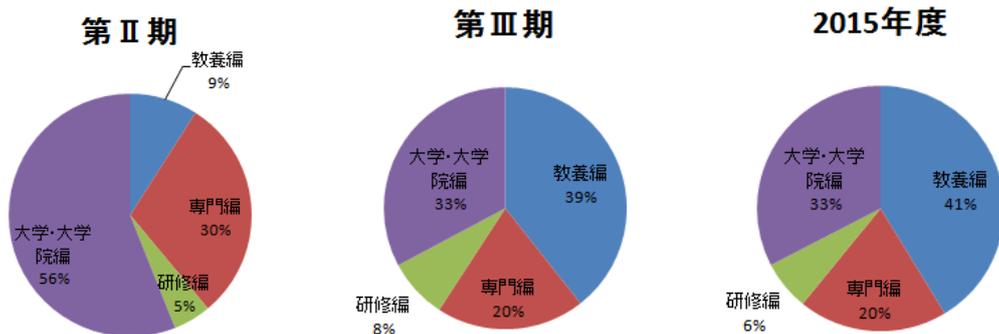


図8 開講科目（関連講座）の分類（第Ⅱ期、第Ⅲ期、2015年度）

第Ⅲ期の関連講座の開講科目の大分類毎の割合は、大学・大学院編の減少と教養編の増加に対応して多様化が進んでいる。

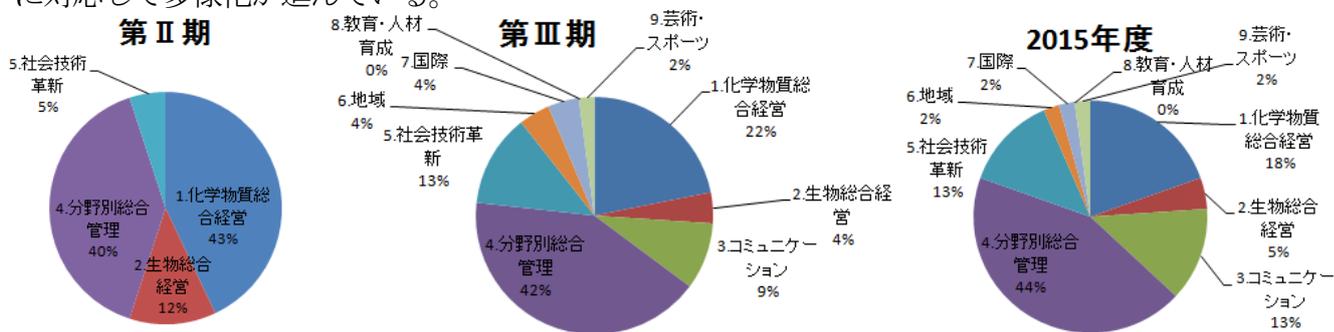
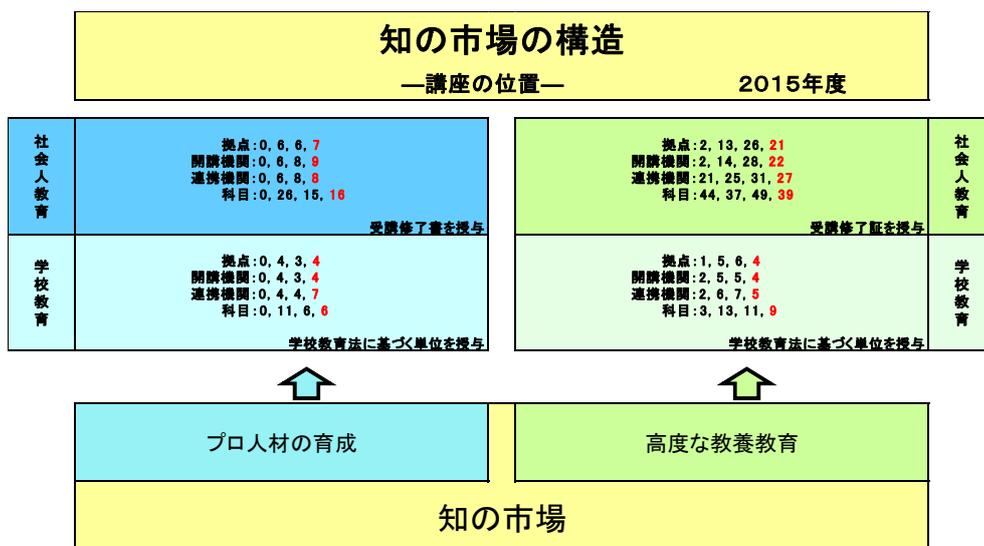


図9 開講科目（関連講座）の大分類（第Ⅱ期、第Ⅲ期、2015年度）

3) 知の市場の構造における位置づけ

引き続き知の市場の構造に沿ってプロ人材の育成と高度な教養教育及び学校教育と社会人教育の観点から知の市場を構造化して4つの象限に区分し科目を位置付ける。

第Ⅰ期、第Ⅱ期に対してプロ人材の育成のための科目が減少する一方で、第Ⅲ期は高度な教養教育としての社会人教育のための科目が増加している。



注: 数字は左から順に第Ⅰ期の平均値、第Ⅱ期の平均値、第Ⅲ期の平均値、2015年度の数値を示す

図10 知の市場の構造—講座の位置付け（2015年度）—

(4) 友の会と協力者・協力機関

第Ⅰ期、第Ⅱ期に比べて、第Ⅲ期は友の会会員、協力機関ともに増加しており、知の市場に係る情報を共有しつつ講座の受講、開講場所の提供、広報の実施などへの自主的かつ自立的な参画と支援・協力が拡大している。

表3 開講状況の推移 (友の会・協力機関)

	第Ⅰ期	第Ⅱ期	2013	2014
友の会会員	2857	3333	5126	4621
協力機関	—	60	84	80

注1：第Ⅰ期の値は2004～2008年度の5年間の各年度末の数字の平均値を示す。第Ⅱ期の値は2009～2012年度の4年間の各年度末の数字の平均値を示す。

注2：2013年度の値は年度末の数字、2014年度の値は2014年12月5日現在の数字を示す。

3. 2013年度受講実績

(1) 受講状況

第Ⅰ期の受講者に比べて第Ⅱ期は3倍に増加したが、第Ⅱ期の後半は東日本大震災や福島原子力発電所の事故の影響により減少した。第Ⅲ期の初年度である2013年度の受講者は第Ⅱ期の平均と比べて減少したが、東日本大震災や福島原子力発電所の事故の後の第Ⅱ期後半とは同水準であり、第Ⅰ期に対しては2倍強増加している。また、修了率は64.3%で第Ⅰ期、第Ⅱ期と比較して上昇している。

表4 受講状況の推移

			年度あたり平均		2013年度	合計
			第Ⅰ期	第Ⅱ期		
年度あたり平均	共催講座	科目数	44	44	41	407
		応募者	1203(27)	1415(32)	1086(26)	12763(31)
		受講者	1191(27)	1370(31)	1078(26)	12517(31)
		修了者	661(15)	723(16)	490(12)	6705(16)
		修了率	55.5%	52.8%	45.5%	53.6%
	関連講座	科目数	—	41	38	248
		応募者	—	2047(50)	1655(44)	9844(40)
		受講者	—	2032(50)	1622(43)	9749(39)
		修了者	—	1398(34)	1247(33)	6839(28)
		修了率	—	68.8%	76.9%	70.2%
	共催+関連	科目数	44	85	79	655
		応募者	1203(27)	3462(39)	2741(35)	22607(35)
		受講者	1191(27)	3407(38)	2700(34)	22266(34)
		修了者	661(15)	2121(25)	1737(22)	13544(21)
		修了率	55.5%	62.3%	64.3%	60.8%

合計	科目数	221	339	79	655
	応募者	6017(27)	13848(41)	2741(35)	22607(35)
	受講者	5957(27)	13627(40)	2700(34)	22266(34)
	修了者	3307(15)	8483(25)	1737(22)	13544(21)
	修了率	55.5%	62.3%	64.3%	60.8%

注1: 第Ⅰ期の値は「化学・生物総合管理の再教育講座」として開講した2004～2008年度の5年間の
 平均値を示す。第Ⅱ期の値は2009～2012年度の4年間の平均値を示す。

注2: 括弧内は科目当りの人数。

(2) 応募者属性

応募者は、現役世代が8割以上を占め男性が女性の2倍に及んでいる。全国展開の進展とともに応募者は地域的に拡大しつつある。また第一次・二次産業に所属する応募者が過半を占めるものの、公務員、研究者、教員、学生・院生なども多く職業は多様である。毎年新規の応募者が過半を占め、上司や教育部門の指示で応募する者も多く増加傾向にある。

1) 年齢別分布

共催講座の年齢構成は、第Ⅰ期、第Ⅱ期、2013年度の現役世代の割合は約8割とほぼ同じであり、全体的に傾向は維持されている。共催講座と関連講座の合計では大学・大学院編の学生・院生の受講に伴い20代の割合が多く現役世代が9割近くを占めている。

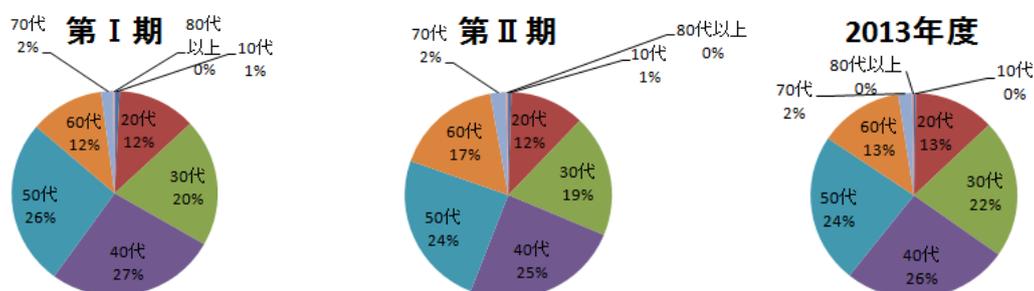


図 11-1 年齢別応募者（共催講座）（第Ⅰ期、第Ⅱ期、2013年度）

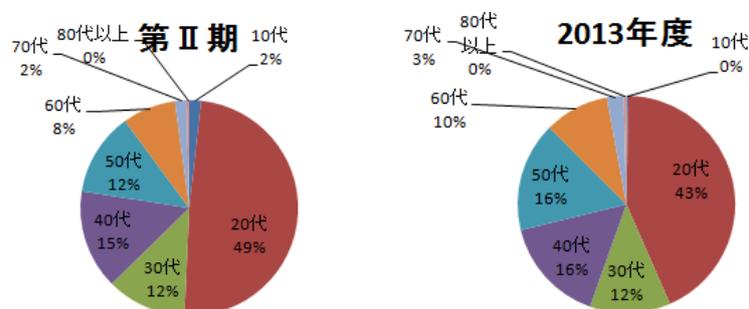


図 11-2 年齢別応募者（共催・関連講座）（第Ⅱ期、2013年度）

2) 地域別分布

2013年度の共催講座の応募者の居住地は、関東と東京が大半を占めていることには変わりがないが、第Ⅰ期、第Ⅱ期と比較して開講拠点の全国展開により次第に東京と関東の割合が減少する一方で、近畿圏の割合が増加するなど全国展開が進んでいる。共催講座と関連講座の合計では、東海地域の割合が減少する一方で、関東圏と近畿圏の割合が増加している。

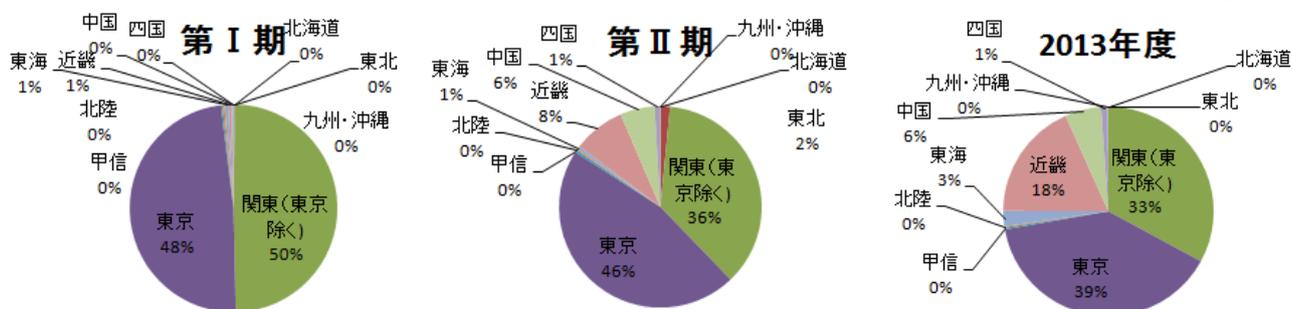


図 12-1 地域ブロック別応募者（共催講座）（第Ⅰ期、第Ⅱ期、2013年度）

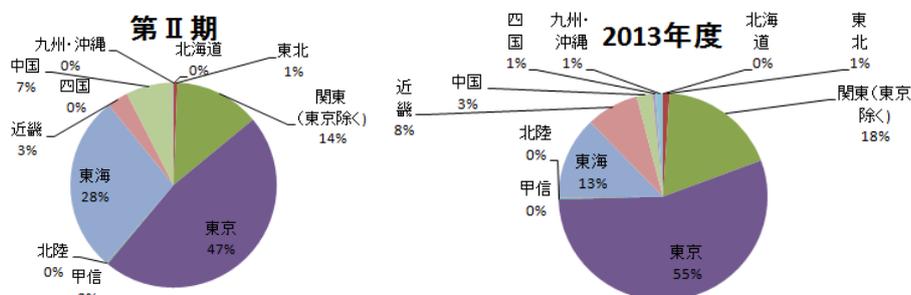


図 12-2 地域ブロック別応募者（共催・関連講座）（第Ⅱ期、2013年度）

3) 職業別分布

2013年度の共催講座の職業別応募者は、二次産業と三次産業の合計で70%近くを占め第Ⅰ期、第Ⅱ期の傾向を維持している。残りの30%程度は研究者、教員、公務員、学生・院生などであり、社会の広範な分野の者が参画している。共催講座と関連講座の合計では、学生・院生が大きな比率を占めている。第Ⅱ期の後半に名古屋市立大学の学び直し講座の定常化に伴い医療・保健が減少する一方でその他の職業の割合は増加し、講座は多様な職業分野から関心を得ている。

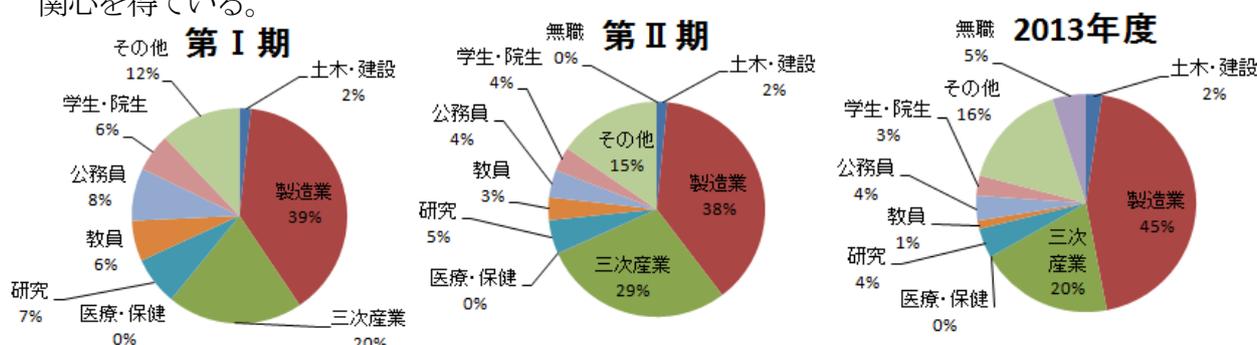


図 13-1 職業別応募者（共催講座）（第Ⅰ期、第Ⅱ期、2013年度）

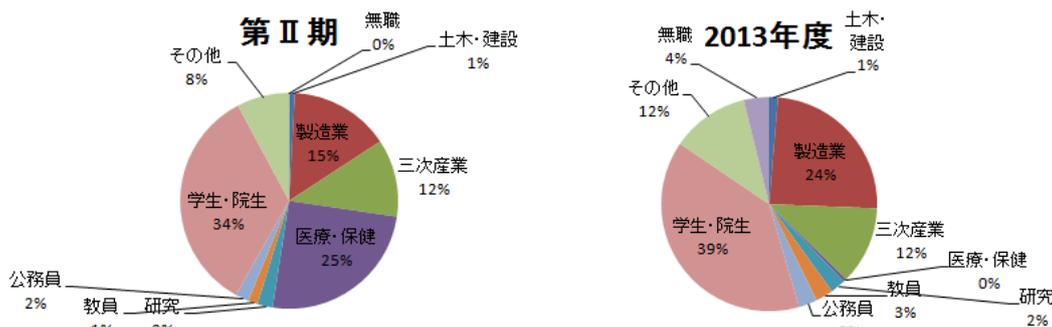


図 13-2 職業別応募者 (共催・関連講座) (第Ⅱ期、2013年度)

4) 男女別分布

2013年度の共催講座の男女比は、男性が約70%、女性が約30%であり、第Ⅰ期、第Ⅱ期と比較して男性の比率が増加する傾向にある。年齢構成で現役世代が約8割を占めていることとともに男性の比率が圧倒的に大きいことに知の市場に対する社会の評価が端的に表れており、社会に多数存在するいわゆるカルチャーセンターとは全く異なる存在として社会から認知されている。

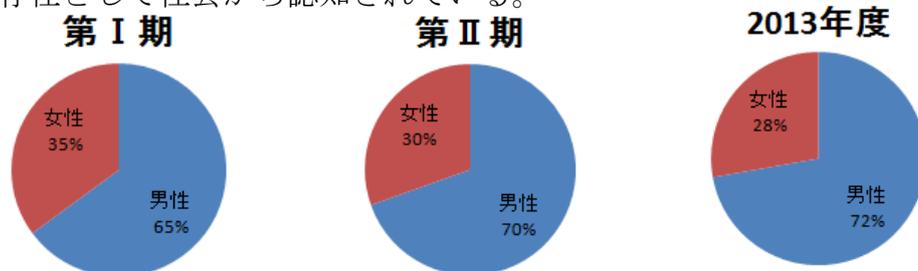


図 14 男女別応募者 (共催講座) (第Ⅰ期、第Ⅱ期、2013年度)

5) 受講回数分布

共催講座の応募者が過去に何回受講したことがあるかについては、第Ⅰ期、第Ⅱ期と比較して2013年度はそれまで受講したことがない新規の応募者が大幅に増加している。新規の開講拠点が全国で増えたことなどが新規の受講者の増加につながっており、知の市場は新たな広がりを増している。

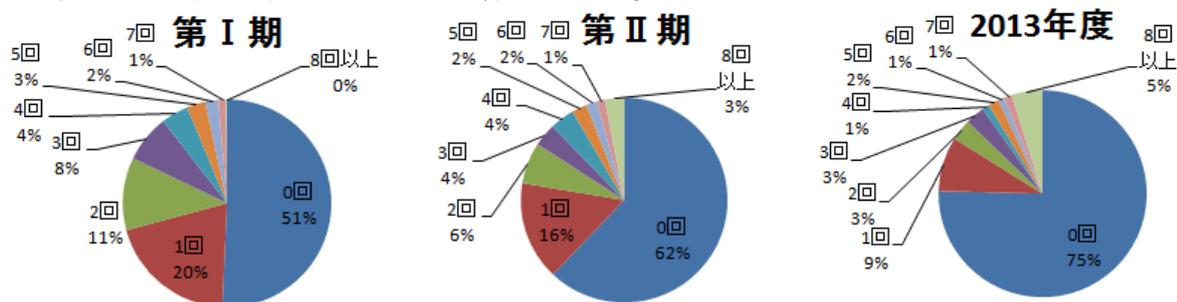
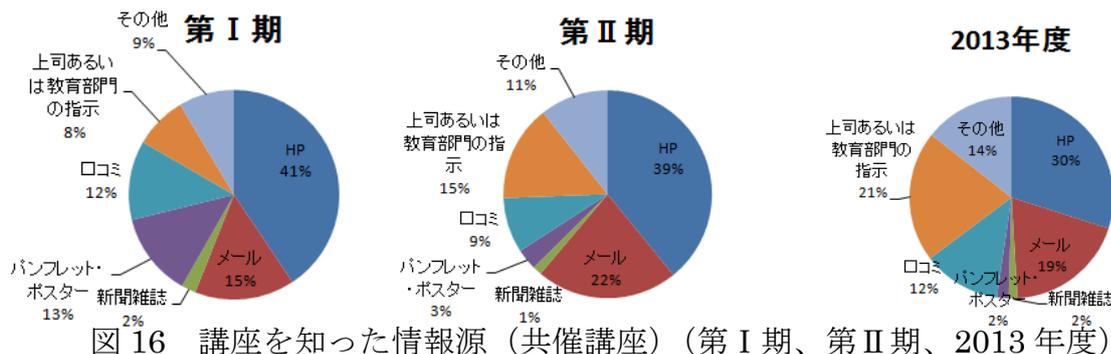


図 15 応募者の過去の受講回数 (共催講座) (第Ⅰ期、第Ⅱ期、2013年度)

6) 情報源分布

2013年度の共催講座の応募者が講座を知った情報源については、第Ⅰ期、第Ⅱ期と比較してホームページの占める割合が減少する一方で上司或いは教育部門の指示が増加しており、企業や公共団体など諸々の機関において知の市場は高く評価され、実質的に研修コースとして位置づけられている。



4. 点検評価

(1) 自己点検評価

48 機関の開講機関及び連携機関で協議会を構成し、110 名の構成員が運営主体として知の市場の運営の全般について相互に点検し評価している。

表 5 知の市場協議会構成員の所属内訳及び人数

所属分類	機関数	比率	人数	比率
専門機関・研究機関	9	19%	23	21%
公共団体	2	4%	3	3%
産業界・業界団体	16	33%	29	26%
大学・学会	12	25%	17	15%
消費者団体・非営利団体他	5	10%	10	9%
市民（個人）	4	8%	28	25%
合計	48		110	

(2014 年 12 月 5 日現在)

自己点検評価の一環として、開講科目を客観的に評価して科目の改善や講座運営の合理化などに活用するため科目の終了時点で、講師に対して受講者の態度、意欲、コミュニケーション、理解度、満足度の 5 項目及び講座運営の全般などに関する 7 項目の合計 12 項目のアンケート調査を実施する。

また、講師の自己点検と授業の改善に活用するため 15 回の講義毎に毎回、受講者に対して授業の満足度、理解度、講義レベル、講師の話し方、教材の 5 項目についてアンケート調査を実施する。さらに、開講科目を客観的に評価して科目の改善や講座運営の合理化などに活用するため科目の終了時点で、受講者に対して受講するに至った背景や動機、満足度や理解度、授業の内容や科目の構成など 25 項目についてアンケート調査を実施する。

いずれの調査結果においても、過去の傾向から大きな変化はなく、知の市場は引き続き高い評価を得ている。

1) 講師による評価

講師は受講者の受講態度の良さや受講意欲の高さを評価している。また、受講者との意見交換が十分にできるなど講師自身にとっても良い経験の機会になっていると高く評価している。さらに、講義を行うことは知識の整理になり講師にとっても貴重

な自己研鑽の機会であるとの評価が定着しており、企業や専門・研究機関が連携機関として科目を開講することにより自らの組織の人材育成に活かそうとする動きにつながっている。

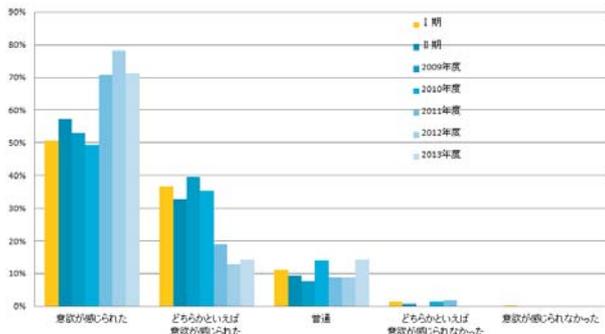


図 17 講師による受講者の受講意欲の評価 (共催講座)

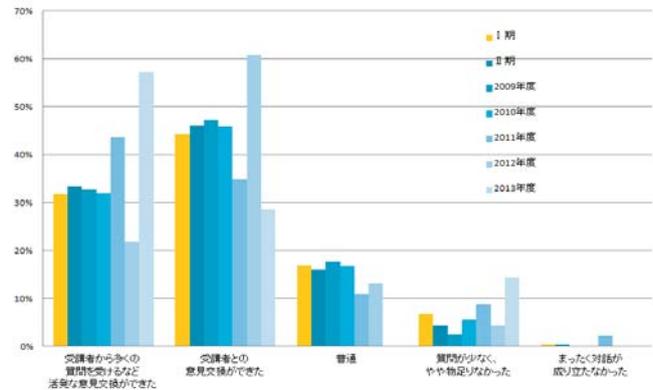


図 18 講師による受講者とのコミュニケーションの評価 (共催講座)

2) 受講者による評価

受講者は講義に対して高い満足度を示し、講義に対する理解度も高い。100%近い受講者が次回も受講したい或いは他人にも講座を紹介したいと答えており、知の市場は社会から高い評価を受けている。また、受講者の大多数が職業に係る知識の修得において役立つのみならず自らの教養を高めたり学習の充実感を得る上で有益であると評価しており、現代社会と世界動向を理解するための教養を醸成するという知の市場の目的は社会で広く受け入れられている。

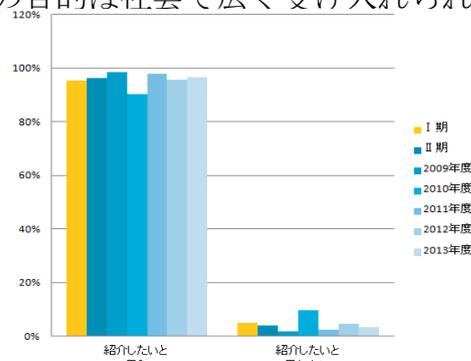


図 19 受講者の他人へ紹介 (共催講座)

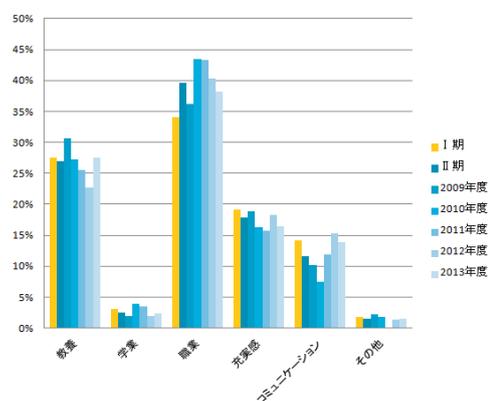


図 20 受講が役立つ点 (共催講座)

(2) 評価委員会による外部評価

外部有職者などによって構成する評価委員会を設置し、自己点検評価の結果を検証し、講座の運営、科目の構成などについて不断に評価し改善に努めている。2015年度は2014年度と比べて2名増加し60名により評価委員会を構成する。2015年度知の市場評価委員会構成員を別表に示す。

表6 知の市場評価委員会構成員の所属内訳及び人数

所属分類	人数	比率
専門機関・研究機関	6	10%
公共団体	3	5%
産業界・業界団体	13	22%
大学・学会	19	32%
消費者団体・非営利団体他	1	2%
報道機関	5	8%
市民（個人）	13	22%
合計	60	

(2014年12月5日現在)

(3) 年次大会の開催

2009年度以降、社会の現場を担う者が自己研鑽に励みつつ人材育成や教育に参画している姿を社会に広く提示すること、社会の多彩な意見を吸収する機会を確保し幅広い人々の検証を受けること、密接なコミュニケーションにより認識の共有化を図る場を提供することなどを通して知の市場の発展に資することを目的として、知の市場の運営に携わる関係者が当該年度の活動の実績や次年度の計画などを広く社会に対して報告し公開する年次大会を開催している。

これまで延べ379名の参画のもと、文部科学省文部科学審議官 板東久美子氏、放送大学理事長・日本オープンオンライン教育推進協議会理事長（前早稲田大学総長）白井克彦氏などの3名の特別講演や11個人と8機関の奨励賞受賞記念講演を行うとともに延べ75機関が開講の実績や計画などについて報告を行った。2014年度もこれまでの実績を踏まえて今後の課題を論じるため引き続き2015年2月12日にお茶の水女子大学で第6回年次大会を開催する。

(4) 奨励賞の授与

知の市場における自己研鑽とその成果を活用する活動及び人材育成や教養教育の発展と知の市場の発展に資する活動を奨励することを目的として、2010年度から奨励賞を授与している。自薦・他薦及び開講や受講の実績調査などに基づき知の市場協議会における審議と知の市場評価委員会における確認を経て選考する。

これまで、知の市場で受講し自己研鑽に励みかつその成果を社会に活用した者として河端茂氏の1名、開講機関や連携機関として人材育成や教養教育の発展と知の市場の発展に係る活動に参画した機関として国立感染症研究所、化学工学会 SCE・Net、主婦連合会、農業生物資源研究所、日本獣医師会、製品評価技術基盤機構、名古屋市立大学の7機関、講師として人材育成や教養教育の発展と知の市場の発展に係る活動に参画した者として上路雅子氏、永山敏廣氏、尾崎圭介氏、保利一氏、星川欣孝氏、服部道夫氏、津田洋幸氏、山崎徹氏、長田敏氏、堀中新一氏の10名、受講者を多く輩出し人材育成や教養教育の発展と知の市場の発展に貢献した機関としてお茶の水女子大学の1機関に奨励賞を授与した。2014年度は、講師として人材育成や教養教育の発展と知の市場の発展に係る活動をした者として1名に奨励賞を授与する。これによって奨励賞の授賞者は12個人と8機関の合計20件に達する。

表7 奨励賞授与の実績

年度	受講者		講師	参画・協力機関	
	個人	機関		開講／連携機関	連携機関のみ
2010	1	—	0	3	0
2011	0	—	3	2	1
2012	0	—	5	1	0
2013	0	1	2	0	0
2014 (予定)	0	0	1	0	0

(2014年12月5日現在)

5. 今後の課題

「知の市場」は今後も恒常的に教育内容の向上に努める。また、連携機関の拡充を図って開講分野を拡大し、現代社会と世界動向を理解するために必要なより広範で総合的な自己研鑽の機会を提供する。さらに開講機関の拡充を図って開講拠点の全国展開をさらに進め、自己研鑽の機会の日常化と普遍化を推進していく。

また、第Ⅰ期、第Ⅱ期の実績を踏まえつつ、第Ⅲ期は社会を構成する多彩な者が自主的に参画する活動として「知の市場」がさらに自立的にして自律的に発展していくための基盤を確立することを目指す。そのため、活動の簡素化と合理化を一層推進するとともに、知の市場の活動の透明性をさらに高めつつ双方向のコミュニケーションを強化して認識の共有化を促進し連携と共働を強化する。

【知の市場評価委員会構成員一覧】

委員名 (敬称略)	所属	肩書	分類
相澤益男	科学技術振興機構	顧問 (東京工業大学元学長・元総合科学技術会議議員)	大学
阿尻雅文	東北大学 未来科学技術共同研究センター	教授	大学
阿南忠明			市民
阿部博之	科学技術振興機構	顧問 (東北大学元総長・元総合科学技術会議議員)	大学
磯知香子			市民
市古夏生	お茶の水女子大学	理事、副学長 (総務機構長)	大学
井上睦子	文部科学省	大臣官房国際課国際戦略企画室長	公共団体
今給黎佳菜			市民
内ヶ崎功	日立化成	元社長・元会長	産業界
大川秀郎	中国農業科学院油糧作物研究所	特聘教授 (神戸大学名誉教授)	大学
大川原正明	大川原化工機	社長	産業界
大久保明子	住友ベークライト	S-バイオ事業部 マーケティング・営業部長	産業界
大森亜紀	読売新聞東京本社 編集局生活情報部	記者	報道機関
梶山千里	福岡女子大学	理事長兼学長 (元九州大学総長)	大学
軽部征夫	東京工科大学	学長 (東京大学名誉教授)	大学
河端茂	YKK AP	商品品質管理部	産業界
神田尚俊	東京農工大学	名誉教授	大学
菊田安至	福山大学 社会連携研究推進センター	教授	大学
岸田春美			市民
岸田文雄			市民
北野大	淑徳大学	教授	大学
倉内憲孝	住友電工	名誉顧問	産業界
桑原洋	日立製作所	元副会長	産業界
倉田毅	国際医療福祉大学	教授 (元国立感染症研究所長)	専門機関
小出重幸	元読売新聞	元読売新聞編集委員	報道機関
小宮山宏	三菱総合研究所	理事長 (前東京大学総長)	大学
白井克彦	放送大学学園	理事長 (前早稲田大学総長)	大学
高橋俊彦	J S R	環境安全部	産業界
館かおる	お茶の水女子大学	名誉教授・ジェンダー研究センター客員研究員	大学
田部井豊	農業生物資源研究所	遺伝子組換え研究推進室長	専門機関
辻篤子	朝日新聞社	論説委員	報道機関
津田喬子	名古屋市立東部医療センター東市民病院	名誉院長	大学
常盤豊	文部科学省	大臣官房審議官	公共団体
中島幹	綜研化学	会長	産業界
中島邦雄	化学研究評価機構	理事長 (政策研究大学院大学名誉教授)	専門機関
永田裕子	みずほ情報総研	コンサルティング業務部次長	専門機関
長野庵士	西村あさひ法律事務所	弁護士	専門機関
中村幸一			市民
中村雅美			市民
西野仁雄	名古屋市立大学	前学長	大学
野中哲昌	ダイセル	生産技術本部 生産センター所長	産業界
橋都なほみ	じほう	編集主幹	報道機関
服田昌之	お茶の水女子大学	准教授	大学
板東久美子	消費者庁	長官	公共団体
樋口敬一			市民
日和佐信子	雪印メグミルク	社外取締役 (元消費者団体連絡会事務局長)	消費者団体
福永忠恒			市民
保利一	産業医科大学	産業保健学部長	大学
前田浩平	三洋化成工業	執行役員	産業界
増田和子	増田寔和堂	表具師	市民
三浦千明			市民
溝口忠一			市民
向殿政男	明治大学	校友会会長、名誉教授	大学
村田康博	YKK		産業界
守谷恒夫	住友ベークライト	元社長・元会長	産業界
保田浩志	国連科学委員会事務局	プロジェクトマネージャー	専門機関
山下俊一	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科	教授	大学
山本佳世子	日刊工業新聞社	論説委員兼編集委員	報道機関
結城命夫			市民
吉田淑則	JSR	元社長・前会長	産業界

2014年12月5日現在 合計60名

注: 評価委員は個人の資格で評価委員会に参画し、個人としての見識に基づいて意見を述べる。

【体系と機能】

Free Market of by for Wisdom

Voluntary Open Network Multiversity

知の市場

「互学互教」の精神のもと「現場基点」を念頭に「社学連携」を旗印として
 実社会に根ざした「知の世界」の構築を目指して
 人々が自己研鑽と自己実現のために自立的に行き交い自律的に集う場

	友の会	連携学会	協力者・協力機関	有志学生実行委員会	知の市場事務局	協議会	評価委員会	
共 催 講 座	東京・放送大学文京学習センター	東京知の市場、放送大学(協賛)	放送大学文京学習センター(東京メトロ茗荷谷駅)					
	東京・西早稲田(1) 労研	労働科学研究所、早稲田大学規範科学総合研究所	早稲田大学西早稲田キャンパス(東京メトロ西早稲田駅)					
	埼玉・狭山	狭山商工会議所、狭山市	狭山市産業労働センター(西武新宿線狭山市駅前)					
	大阪・千里山	日本リスクマネジネットワーク	関西大学千里山キャンパス(阪急千里線千里山駅前)					
	鳥取・倉吉	動物臨床医学研究所	動物臨床医学研究所又は倉吉あわせの郷(JR倉吉駅)					
	東京・戸山	国立感染症研究所	国立感染症研究所(東京メトロ早稲田駅、若松河田駅)					
	東京・大岡山	東京知の市場	東京工業大学大岡山キャンパス(東急大井町線・目黒線大岡山駅)					
	東京・四ツ谷	農業生物資源研究所	主幹会館(JR・東京メトロ四ツ谷駅前)					
	愛知・名古屋	東洋システム	名古屋トヨタ産業技術記念館(名鉄名古屋本線栄栄駅)					
	I 教 養 編	愛知・名古屋市立大学(1) 最新医学	名古屋市立大学最新医学講座オープンカレッジ	名古屋市立大学川澄キャンパス(名古屋市地下鉄桜山駅)				
東京・茗荷谷		化学工学会SCB・Net	お茶の水女子大学(東京メトロ茗荷谷駅、護国寺駅)					
東京・幡ヶ谷		製品評価技術基盤機構	製品評価技術基盤機構(京王新線幡ヶ谷駅)					
東京・筑波大学東京キャンパス		筑波大学	筑波大学東京キャンパス文京校舎(東京メトロ茗荷谷駅)					
千葉・千葉		千葉市科学館	Qiball 13階 ビジネス支援センター(JR千葉駅、京成千葉中央駅)					
大阪・関西大学高槻		製品評価技術基盤機構、関西大学社会安全学部、 関西南東者連合会	関西大学高槻ミュージアムキャンパス(JR高槻駅)					
東京・西早稲田(2) 製評機構		製品評価技術基盤機構、早稲田大学規範科学総合研究所	早稲田大学西早稲田キャンパス(東京メトロ西早稲田駅前)					
東京・関西大学東京センター		関西大学社会安全学部	関西大学東京センター(JR東京駅、東京メトロ大手町駅)					
東京・九段		早稲田リーガルコモンズ法律事務所	早稲田リーガルコモンズ法律事務所(東京メトロ九段下駅)					
東京・浅草		日本中央競馬会	浅草パークホール(つくばエクスプレス浅草駅)					
東京・大東文化大学板橋キャンパス		生協総合研究所、大東文化大学	大東文化大学板橋キャンパス(東武東上線東武練馬駅、都営三田線西台駅)					
神奈川・川崎高津区		神奈川科学技術アカデミー	神奈川科学技術アカデミー(東急田園都市線溝の口駅、JR武蔵溝ノ口駅)					
大分・大分		大分知の市場	大分県大分市内(未定)					
II 専 門 編		愛知・名古屋市立大学(2) 学びなおし	名古屋市立大学学びなおし支援センター	名古屋市立大学川澄キャンパス(名古屋市地下鉄桜山駅)				
		東京・明治大学	明治大学リベリアカデミー、明治大学安全学研究所、 明治大学大学院理工学研究所新領域創造専攻	明治大学駿河台校舎リベリタワー(JR御茶ノ水駅)				
	神奈川・川崎宮前区	労働科学研究所	労働科学研究所(横浜市営地下鉄あざみ野駅からバス)					
III 研 修 編	埼玉・狭山元気プラザ	アダムジャパン、狭山商工会議所、狭山市	狭山元気プラザ、アダムジャパン(西武新宿線狭山市駅からバス)					
	福島・いわき	東洋システム	東洋システム(JR湯本駅)					
	神奈川・川崎高津区	神奈川科学技術アカデミー	神奈川科学技術アカデミー(東急田園都市線溝の口駅、JR武蔵溝ノ口駅)					
IV 大 学 ・ 大 学 院 編	東京・早稲田大学理工学部	早稲田大学先進理工学部				3ユニット開講		
	東京・早稲田大学理工研究科	早稲田大学先進理工学研究所生命医学専攻					1科目開講	
	東京・早稲田大学共同先進健康科学専攻	早稲田大学先進理工学研究所共同先進健康科学専攻					2科目開講	
	東京・明治大学理工研究科	明治大学大学院理工学研究所新領域創造専攻					2科目開講	
	東京・筑波大学	筑波大学					2科目開講	
	大分・大分大学	大分大学教育福祉科学部・都甲研究室					3ユニット開講	
	東京・東京工業大学理工研究科	東京工業大学大学院理工学研究所化学工学専攻					1科目開講	
	東京・大東文化大学	大東文化大学					1科目開講	

2015年度 前期

公開講座「知の市場」の機関別開講科目一覧

■ 共催講座

No.	科目名	連携機関	副題	曜日	時間
東京・放送大学文京学習センター 知の市場 開講機関：知の市場/放送大学（協賛） 会場：放送大学東京文京学習センター（地下鉄茗荷谷駅）					
UT136	規範科学事例研究 1	化学生物総合管理学会化学物質総合経営学教育研究会	社会の諸々のリスク・マネジメントの実態を検証する	火集中	13:00-17:00
UT137	化学物質総合計学事例研究 1	化学生物総合管理学会化学物質総合経営学教育研究会	国際的枠組みと企業の自主管理活動を検証	火集中	13:00-17:00
UT133	化学物質総合経営学概論	化学生物総合管理学会化学物質総合経営学教育研究会	化学物質総合管理を目指す国際協調活動に学ぶ	水集中	13:00-17:00
UT551	知的財産権論	プロメテ国際特許事務所	知的財産権制度の基本と各国の特徴	水	15:00-17:00
UT115a	化学物質リスク評価（演習 1）	新 花井リスク総合研究所	必要な情報やデータをどう入手し活用するか	木集中	13:30-17:30
UT425	労働衛生管理	武田労働衛生コンサルタント事務所	職場における労働衛生の基本を実践的に語る	金集中	13:20-16:30
UT812	プロフェッショナル論	放送大学	楽しく豊かな人生を創造するプロフェッショナルの心得	金集中	14:00-18:00
UT455	サステイナビリティ学入門	鈴木基之	環境からみる持続可能性を論じる	木	14:00-18:00
東京・早稲田（1）労研 知の市場 開講機関：労働科学研究所/早稲田大学規範科学総合研究所 会場：早稲田大学西早稲田キャンパス（地下鉄早稲田駅前）					
RT421	労働科学	労働科学研究所	産業保健の基礎：労働科学の歴史と展開	土集中	11:00-17:50
埼玉・狭山 知の市場 開講機関：狭山商工会議所/狭山市 会場：狭山市産業労働センター（西武新宿線狭山市駅前）					
YB611b	狭山を学ぶ 企業編b	狭山商工会議所/狭山市	狭山を彩るものづくり企業シリーズb -狭山工業団地エリア編-	木	18:30-20:30
鳥取・倉吉 知の市場 開講機関：動物臨床医学研究所 会場：動物臨床医学研究所又は伯耆しあわせの郷（JR倉吉駅）					
ZY222i	動物臨床医学事例研究i	動物臨床医学研究所	臨床現場に有用な症例検討のあり方 1	日	9:30-16:50
東京・戸山 知の市場 開講機関：国立感染症研究所 会場：国立感染症研究所（地下鉄早稲田駅・若松河田駅）					
PT211a	感染症総合管理 1a	国立感染症研究所	感染症との闘いー現在問題となっている感染症ー	火	18:30~20:30
東京・大岡山 知の市場 開講機関：知の市場 会場：東京工業大学大岡山キャンパス（東急大井町線・目黒線大岡山駅）					
UE535	資源・エネルギー・安全基礎論	社会技術革新学会石油サウジアラビア教育研究会	技術革新と社会変革に深く係る資源・エネルギーとリスク管理のための社会的規範を巡る世界の動向を語る	金集中	13:20-18:10
愛知・名古屋 知の市場 開講機関：東洋システム 会場：名古屋トヨタ産業技術記念館（名鉄名古屋本線栄生駅）					
BA515	社会技術革新事例研究 1	社会技術革新学会リチウム電池教育研究会	リチウムイオン 2 次電池開発の歴史に見る技術革新と経営革新の成否の要因	金	13:00-17:30

■ 関連講座

（大学・大学院編を除く）

No.	科目名	連携機関	副題	曜日	時間
愛知・名古屋市立大学（1）最新医学 開講機関：名古屋市立大学健康科学講座オープンカレッジ 会場：名古屋市立大学川澄キャンパス（地下鉄桜山駅前）					
教養編	第1期講座・第2期講座	名古屋市立大学大学院医学研究科		金	18:30-20:00
東京・茗荷谷 知の市場 開講機関：化学工学会SCE・Net 会場：お茶の水女子大学（地下鉄茗荷谷駅・護国寺駅）					
VT465a	原子力・放射能基礎論	化学工学会SCE・Net	原子力と放射能の基礎から応用までを学ぶ	土集中	13:00-17:10
東京・幡ヶ谷 知の市場 開講機関：製品評価技術基盤機構 会場：製品評価技術基盤機構（京王新線幡ヶ谷駅）					
SE125	化学物質総合管理特論	製品評価技術基盤機構	化学物質に関するリスク評価とリスク管理の基礎知識	火	18:30-20:30
SE232	バイオ安全特論	製品評価技術基盤機構	微生物資源の活用とバイオ安全の基礎知識	木	18:30-20:30
東京・筑波大学 東京キャンパス知の市場 開講機関：筑波大学 会場：筑波大学東京キャンパス（茗荷谷駅）					
305	サイエンスコミュニケーション実践論	筑波大学/日本サイエンスコミュニケーション協会		月	18:30-20:00
千葉・千葉 知の市場 開講機関：千葉市科学館 会場：Qiball 13階 ビジネス支援センター（JR千葉駅、京成千葉中央駅）					
TD307a	サイエンスコミュニケーション実践論a	千葉市科学館	サイエンスコミュニケーションの理論と実践	土	13:30-15:30
大阪・関西大学高槻 知の市場 開講機関：製品評価技術基盤機構/関西大学社会安全学部/関西消費者連合会 会場：関西大学高槻ミュージアムキャンパス（JR高槻駅）					
SK441	製品総合管理特論	製品評価技術基盤機構	製品安全対策の基礎知識	金	18:00-20:00
東京・関西大学東京センター 知の市場 開講機関：関西大学社会安全学部 会場：関西大学東京センター（JR東京駅・地下鉄大手町駅）					
LE472b	社会安全学b	関西大学社会安全学部	安全・安心社会と社会安全学	木	18:00-20:00
東京・九段 知の市場 開講機関：早稲田リーガルコモンズ法律事務所 会場：早稲田リーガルコモンズ法律事務所（地下鉄九段下駅）					
QE573	現代環境法入門	第二東京弁護士会環境法研究会	環境法制の生成・発展と公害・環境訴訟から環境法制のあり方を考える	木	18:30-20:00
東京・大東文化大板橋キャンパス 知の市場 開講機関：生協総合研究所/大東文化大学 会場：大東文化大板橋キャンパス（東武東上線東武練馬駅・都営三田線西台駅）					
KT542	生協社会論	大東文化大学/生協総合研究所		水	未定
愛知・名古屋市立大学（2）学びなおし 知の市場 開講機関：名古屋市立大学学びなおし支援センター 会場：名古屋市立大学川澄キャンパス（地下鉄桜山駅前）					
14-101-14-103	春季講座	名古屋市立大学学びなおし支援センター		火-木	18:30-20:00
東京・明治大学 知の市場 開講機関：明治大学リハビリアカデミー/明治大学安全学研究所/明治大学大学院理工学研究科新領域創造専攻 会場：明治大学リハビリタワー（JR・地下鉄御茶ノ水駅）					
IT443a	安全学入門	明治大学大学院理工学研究科新領域創造専攻/明治大学リハビリアカデミー	安全を総合的に、包括的に考える	土集中	13:00-16:10
福島・いわき 知の市場 開講機関：東洋システム 会場：東洋システム（JR湯本駅）					
BF138	国際化学物質総合経営学	新 社会技術革新学会社会技術学新学教育研究会		通年	

知の市場ホームページ <http://www.chinoichiba.org/>に、シラバス（講義内容）を掲載していますが、最新版のシラバスは各開講機関ホームページから確認してください。

◆ 問合せ ◆ 各開講機関までお問い合わせください。問合せ先は、本リーフレットリンク先もしくは知の市場ホームページからご確認ください。

2015年度 後期

公開講座「知の市場」の機関別開講科目一覧

■共催講座

No.	科目名	連携機関	副題	曜日	時間
東京・放送大学文学学習センター 知の市場 開講機関：知の市場/放送大学（協賛） 会場：放送大学東京文学学習センター（地下鉄茗荷谷駅）					
UT455	サステナビリティ学入門	鈴木基之	環境からみる持続可能性を論じる	木	14:00-18:00
東京・西早稲田（1）労研 知の市場 開講機関：労働科学研究所/早稲田大学規範科学総合研究所 会場：早稲田大学西早稲田キャンパス（地下鉄西早稲田駅前）					
RT422a	労働科学特論a	労働科学研究所	産業安全保健エキスパート養成コース（安全）	木金土集中	9:30-18:30
RT422b	労働科学特論b	労働科学研究所	産業安全保健エキスパート養成コース（健康）	木金土集中	9:30-18:30
RT422c	労働科学特論c	労働科学研究所	産業安全保健エキスパート養成コース（職場環境）	木金土集中	9:30-18:30
埼玉・狭山 知の市場 開講機関：狭山商工会議所/狭山市 会場：狭山市産業労働センター（西武新宿線狭山市駅前）					
YB614a	狭山を学ぶ 教育編a	狭山商工会議所/狭山市	中学生における経済キャリア教育 1（対象：狭山市内中学生・公募）	土集中	13:00-17:00
YB612b	狭山を学ぶ ものづくり編b	狭山商工会議所/狭山市/狭山市茶業協会	グローバルブランドを目指す狭山茶の全てを学ぶ	火土	10:00-12:00 13:00-17:00
大阪・千里山 知の市場 開講機関：日本リスクマネージャネットワーク 会場：関西大学千里山キャンパス（阪急電鉄関大駅前）					
JK131b	防疫薬総合管理	日本環境動物昆虫学会	身近な生活・環境害虫防除ー世界をリードする防疫薬と害虫防除技術ー	月	18:15-20:15
JK454	環境基礎論	日本リスクマネージャネットワーク	市民の環境問題入門	火	18:15-20:15
鳥取・倉吉 知の市場 開講機関：動物臨床医学研究所 会場：動物臨床医学研究所又は伯耆しあわせの郷（JR倉吉駅）					
ZY222j	動物臨床医学事例研究j	動物臨床医学研究所	臨床現場に有用な症例検討のあり方 2	日	9:30-15:10
東京・戸山 知の市場 開講機関：国立感染症研究所 会場：国立感染症研究所（地下鉄早稲田駅・若松河田駅）					
PT211b	感染症総合管理 1 b	国立感染症研究所	感染症対策ーワクチンを中心にー	火	18:30-20:30
東京・四ツ谷 知の市場 開講機関：農業生物資源研究所 会場：主婦会館（JR・地下鉄四ツ谷駅前）					
AT231	農業生物資源特論	農業生物資源研究所	バイオテクノロジーで拓く食料、医療などへの農業生物資源の利用と未来	木	18:30-20:30

■関連講座

（大学・大学院編を除く）

No.	科目名	連携機関	副題	曜日	時間
東京・茗荷谷 知の市場 開講機関：化学工学会SCE・Net 会場：お茶の水女子大学（地下鉄茗荷谷駅・護国寺駅）					
VT523c	化学工業特論	化学工学会SCE・Net	社会を支える化学工業とその製品群	土集中	13:00-15:00
愛知・名古屋市立大学（1）健康 知の市場 開講機関：名古屋市立大学健康科学講座オープンカレッジ 会場：名古屋市立大学川澄キャンパス（地下鉄桜山駅前）					
教養編 第3期講座		名古屋市立大学大学院医学研究科		金	18:30-20:00
東京・筑波大学 東京キャンパス知の市場 開講機関：筑波大学 会場：筑波大学東京キャンパス（地下鉄茗荷谷駅）					
306	リスクコミュニケーション入門	筑波大学/日本サイエンスコミュニケーション協会		月	18:30-20:30
千葉・千葉 知の市場 開講機関：千葉市科学館 会場：千葉市科学館（京成千葉中央駅）					
TD307b	サイエンスコミュニケーション実践論b	千葉市科学館	サイエンスコミュニケーションの理論と実践	土	13:30-15:30
東京・西早稲田（2）製評機構 知の市場 開講機関：製品評価技術基盤機構/早稲田大学規範科学研究所 会場：早稲田大学西早稲田キャンパス（地下鉄西早稲田駅前）					
ST441	製品総合管理特論	製品評価技術基盤機構	製品安全対策の基礎知識	火	18:30-20:30
東京・浅草 知の市場 開講機関：日本中央競馬会 会場：東京・浅草パークホール（つくばエクスプレス浅草駅）					
HT921	実践競走馬学	日本中央競馬会	馬はどのような生き物か、競馬とサラブレッドの魅力を語る	木	18:15-20:15
神奈川・川崎高津区 知の市場 開講機関：神奈川科学技術アカデミー 会場：神奈川科学技術アカデミー（東急線溝の口駅・JR線武蔵溝ノ口駅）					
教養編	化学物質総合管理論b	化学物質総合管理学会化学物質総合経営学教育研究会			
大分・大分 知の市場 開講機関：大分知の市場 会場：大分県大分市内（未定）					
教養編	国際多様性論	社会技術革新学会多様性基礎教育研究会		集中	
愛知・名古屋市立大学（2）学びなおし 知の市場 開講機関：名古屋市立大学学びなおし支援センター 会場：名古屋市立大学川澄キャンパス（地下鉄桜山駅前）					
14-201~203	秋季講座	名古屋市立大学学びなおし支援センター		火-木	
東京・明治大学 知の市場 開講機関：明治大学リハビリアカデミー/明治大学安全学研究所/明治大学大学院理工学研究科新領域創造専攻 会場：明治大学リハビリタワー（JR・地下鉄御茶ノ水駅）					
IT443b	製品機械安全特論	明治大学大学院理工学研究科新領域創造専攻/明治大学リハビリアカデミー	製品と機械のリスクアセスメントについて考える	土集中	13:00-16:10
神奈川・川崎宮前区 知の市場 開講機関：労働科学研究所 会場：労働科学研究所（小田急向ヶ丘公園駅・横浜市営地下鉄あざみ野駅からバス）					
RS422d	労働科学特論実習 1	労働科学研究所	産業安全保健エキスパート養成最終コース（現場実習）	月火水金集中	10:00-17:00
埼玉・狭山元氣プラザ 知の市場 開講機関：アダムジャパン/狭山商工会議所/狭山市 会場：狭山元氣プラザ又はアダムジャパン（西武新宿線狭山市駅からバス）					
YB612a	狭山を学ぶ ものづくり編a	アダムジャパン/狭山商工会議所/狭山市	世界に羽ばたきビザードのすべて	水土	16:30-18:30 14:00-16:00
神奈川・川崎高津区 知の市場 開講機関：神奈川科学技術アカデミー					
研修編	労働科学論	武田労働衛生コンサルタント事務所			

知の市場ホームページ <http://www.chinoichiba.org/>に、シラバス（講義内容）を掲載していますが、最新版のシラバスは各開講機関ホームページから確認してください。

◆問合せ◆ 各開講機関までお問い合わせください。問合せ先は、本リーフレットリンク先もしくは知の市場ホームページからご確認ください。